愛媛県総合科学博物館
開館30周年記念誌

Ehime Prefectural Science Museum
30th Anniversary

愛媛県総合科学博物館
Ehime Prefectural Science Museum

ごあいさつ

開館30周年に寄せて

愛媛県総合科学博物館
名誉館長
デザインエンジニア
東京大学特別教授
山中 俊治

　故有馬朗人氏から名誉館長の職を引き継がせていただいて、はや 3 年になります。当初はあまりの重責に、デザイナーの私に何ができるのか戸惑いましたが、この度は開館 30 周年記念特別展「未来をつくる：科学とデザインの実験室」を展示ディレクターを兼務して開催することができました。

　特別展会期中は、子供達や家族連れの皆様をはじめとする大勢の方々に来訪いただきました。おかげさまで、最先端のロボットや縫わずにつくる衣服、3D プリンタ製の不思議な生き物、人が空を飛ぶための装置など、科学者とデザイナーの共同作業から生まれた様々な「未来のかけら」に触れていただく機会を得ました。

　思い起こせば父母も東予の出身であり、私自身も幼い頃にしばらく西条市に暮らしたことがあります。そのゆかりの地で子供達と一緒に未来を考えることができたことを、とても嬉しく思います。企画に携わっていただいたさまざまな方々や住友グループ各社をはじめとしてこの展覧会をご支援いただいた方々に心より感謝申し上げます。

　博物館にはたくさんの過去のものが並んでおりますが、それらはいつの時代も子供達を育み、その地域の未来を作って来ました。本館も、次の輝かしい 30 年を目指して県民の皆様と共に歩んで参りますので、よろしくお願い申し上げます。

開館30周年を迎えて

愛媛県総合科学博物館
館長
池野 光則

　愛媛県総合科学博物館は、平成 6 年の開館以降これまでに 600 万人を超える皆様に御来館いただき、令和 6 年 11 月に開館 30 周年という節目を迎えることができました。これもひとえに、来館・事業参加など当館を御利用いただく皆様の暖かい御支援の賜物と、深く感謝申し上げます。

　さて、当館は、「県民の皆様に、科学に関する正しい理解を深めるための学習機会を提供して、創造的風土の醸成を図るとともに、科学技術の進歩と本県産業の発展に寄与する」ことを目的として、これまでに、皆様の科学する心を喚起する多彩な特別展示・企画展示を数多く開催するとともに、常設展示の自然館や恐竜ロボット、プラネタリウムのリニューアルを実施するなど、絶え間ない進化を続けてまいりました。それにより、幅広い世代の皆様に、科学に触れ、探求心を育む場として親しんでいただいておりますこと、誠に嬉しく感じております。

　今後とも、科学を身近に感じ、学ぶことができる場として、より多くの皆様に御愛顧いただきますようお願い申し上げます。

30周年を祝して、感謝の心を胸に

伊予鉄総合企画株式会社
代表取締役社長
定松 伸一

　愛媛県総合科学博物館が開館30周年を迎えたことを、心よりお祝い申し上げます。指定管理者を代表し、日頃よりご支援、ご協力を賜っている皆様に心から感謝申し上げます。

　当館はこれまで、地域の科学技術教育の場として、数多くの皆様にご来館いただきました。特に次世代を担う子供たちにとって、科学に触れる貴重な機会を提供することを使命として活動して参りました。30年の節目に際し、これまでの歩みを振り返り、愛媛県民をはじめ訪れる全ての方々にとって、より魅力的で親しみやすい場となるよう、更なる充実を図ってまいります。

　今後も皆様のご期待に応え、科学の楽しさや驚きを伝え続ける場としての役割を果たすべく、職員一同、尽力して参ります。引続きご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

もくじ

	ごあいさつ	1
第１章	30 年のあゆみ	5
第２章	展示フロアー紹介	39
第３章	特別展示・企画展示	51
第４章	資料収集	59
第５章	学芸員の調査研究	67
第６章	教育普及活動	73
第７章	アウトリーチ活動	77
第８章	学校との連携・博物館実習	81
第９章	友の会・ボランティア活動	85

愛媛県総合科学博物館のマスコットキャラクター

カハク

第１章

30年のあゆみ

1993年度以前
（昭和63年度～平成５年度）

総合科学博物館調査研究委員会設置
（昭和63年12月３日）

総合科学博物館調査研究委員会の基本構想の知事への答申
（平成3年6月4日）
建設候補地を新居浜市とする。

建築工事着工
（平成4年12月12日）

展示品等整備工事着工
（平成5年7月10日）

1994年度
（平成６年度）

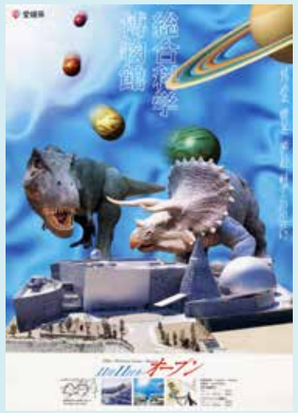
総合科学博物館開設準備室設置
（4月1日）

落成式を挙行
（11月10日）

愛媛県総合科学博物館、公の施設として設置
理化学研究所理事長　有馬朗人氏が館長に就任
（10月1日）

〈プロフィール〉
昭和5年、大阪生まれ。
昭和28年3月、東京大学理学部物理学科卒業。
物理学者、俳人。
東京大学総長、理化学研究所理事長、文部大臣、科学技術庁長官、参議院議員などを歴任したほか、(財)日本科学技術振興財団会長、科学技術館館長を務めました。原子核構造論を専門とし、原子核の電磁気的性質と集団運動現象の研究で成果を挙げ、日本学士院賞等の数々の賞を受けました。

一般公開開始
（11月11日）



入館者数10万人達成！
（1月16日）

開館記念シンポジウム
（平成7年2月11日）

有馬朗人館長による基調講演と「博物館と科学教育ー博物館の楽しみ方ー」をテーマにパネル討論を行いました。

1995年
（平成７年度）

巡回展「エネルギー体験館」
（6月10日～6月25日）

初めて企画展示室を使用した科学展覧会を開催しました。

サマーレクチャー 荒牧重雄「火山噴火のメカニズム」
（8月19日）

生涯学習活動成果展「趣味のペーパーアート」
（9月9日～9月24日）

県民の生涯学習活動の発表の場を提供しました。(H13年度まで)

企画展「ロボットの歴史と未来」
（2月10日～3月30日）

からくり人形から最新のロボットまでを紹介しました。

スプリングレクチャー　中村桂子「生命誌の扉を開く」
（3月10日）

入館者数50万人達成！
（3月3日）

愛媛県総合科学博物館友の会設立
（10月1日）

1996年

夏休み特別展「夏だ！おもしろ博物館」
（8月13日～8月31日）

初の学芸員による期間展示を開催しました。自然史、産業標本の展示と科学工作を行いました。

生涯学習県民講座
畑正憲「ムツゴロウ、大いに語る！」
（10月28日）

各界で活躍している有名な講師を招聘し生涯学習意欲の醸成を図りました。(H15年度まで)

プラネタリウム世界最大認定記念プラネタリウムシンポジウム、プラネタリウムコンサート
（12月17日）

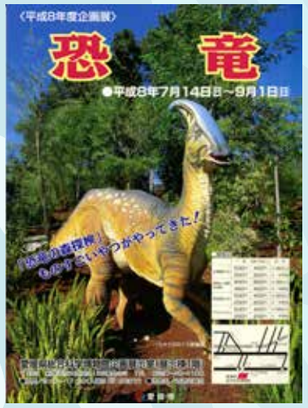
小尾信彌氏による基調講演と「プラネタリウムの楽しみ方」をテーマにパネル討論会を行い、ハープ奏者小倉知恵子とack-ack'6によるコンサートを催しました。

東予芸術文化事業「神崎愛のフルートコンサート」
（2月4日）

芸術文化団体の活性化を図りました。
(H14年度まで)

1996年度
（平成８年度）

企画展「恐竜」
（平成8年7月14日～9月1日）



恐竜が生きた中生代の森を再現したジオラマや植物食恐竜パラサウロロフスの全身骨格（複製）を展示しました。この骨格標本は、常設展示自然館に展示しています。

ロボット相撲大会新居浜場所
（平成9年2月22日）

前年度の企画展関連イベントをきっかけに、この年から独立した事業として開催。県内の工業高校7校が参加し、自立型、ラジコン型の2部門をトーナメント形式で競いました。（平成15年度まで）

1997年度
（平成９年度）

企画展「出発進行！愛媛の鉄道
～坊っちゃん列車から未来の鉄道～」
（7月13日～8月31日）

鉄道模型や車両のプレートなどを展示し、愛媛県の鉄道の変遷を紹介しました。

サマーレクチャー
種村直樹「日本鉄道ぶらり乗り歩き」
（7月26日）

オータムレクチャー
西澤潤一「日本の科学技術と未来」
（11月３日）

入館者数100万人達成！
（3月21日）

1998年

スプリングレクチャー
伊沢紘生「サル社会の論理と人間社会の論理」（3月14日）

1997年

科学講演「科学の楽しさ大切さ～
熱とエネルギー～」
（８月４日）

有馬朗人館長による科学講演。熱とエネルギーに関する原理や法則について実験道具を使って紹介しました。

サマーレクチャー
小畠郁夫「恐竜の謎にせまる」
（8月4日）

生涯学習県民講座
ピーター・フランクル「こころ豊かな生き方を考える」
（11月10日）

スプリングレクチャー
黒田玲子「右の世界左の世界」
（3月10日）

特別展「欧米の科学博物館」
（4月26日～5月25日）

特別展「宇宙開発の過去・現在・未来」
（10月25日～11月24日）

宇宙開発の将来展望について、つくば万博記念財団より借用した巡回展示物と当館独自資料を展示しました。

1998年度
（平成10年度）

企画展「たんけん！超ふしぎ館」
（7月11日～8月30日）

錯覚や光学現象、仮想現実など、「ふしぎ」と感じる客観的事実と感覚とのずれを実際に体験して楽しむ展示を開催しました。

プラネタリウム
講演会 森本雅樹
「私たちの宇宙旅行」
（8月12日）

初めてプラネタリウムで講演会を行いました。

科学講演会
安田喜憲「文明と環境」
（3月27日）

東予芸術文化業
オペラ公演「ニューイヤーコンサート」
～オペラへの招待～
（1月24日）

テーマ展「川の生きもの」
（4月29日～5月11日）

初めて学芸員が手作りした企画展示で身近に生息する川の魚や水草などの生物を展示し、観察体験コーナーも作りました。

館長　有馬朗人氏、退職
（7月20日）

東予生涯学習県民講座市川森一「現代社会と物語社会文明と環境」
（12月20日）

特別展「愛媛の鉱山」
（3月6日～4月11日）

愛媛の鉱山の歴史と現状について展示しました。学芸員作成の鉱山マップは、現在でも活躍しています。

1999年

1999年度
（平成11年度）

GWイベント「世紀の巨大実験ショー」
（4月29日、5月1～5日）

初めてGWに実験イベントを開催。これ以降、巨大実験と題して大規模な実験をGWに実施することになりました。博物館ならではのダイナミックな実験にみんな大興奮！

科学講演会
奥本大三郎「ファーブル昆虫記と昆虫採集」
（7月25日）

日本学術振興会理事長の菊池健氏が館長に就任
（6月9日）

〈プロフィール〉
1929(昭和4)年、松山市出身。理学博士。旧制松山中学、同松山高校を経て、大阪大学理学部物理学科卒業。原子核理論を専攻し、核反応理論で業績を上げる。
東京大学原子核研究所助手時代にサイクロトロンの建設と一連の実験に従事、その後、ミネソタ大学客員講師から名古屋大学理学部教授を経て、昭和 47 年高エネルギー 物理学研究所の開設と同時に教授に就任。平成元年副所長、平成 4 年退官。日本の高エネルギー物理分野の草分けとして活躍、また、日本の学術振興の分野にも尽力し、日本学術振興会の理事などを経て平成10年度から12年度まで理事長を務めました。

企画展「昆虫ワンダーランド」
（7月10日～8月31日）

カブトムシやクワガタの生体展示を行い、多くの入場者で展示室は賑わいました。

特別展「ふしぎ大陸　南極展」
（12月11日～1月16日）

南極観測50周年を記念した巡回展。南極の氷を触れるコーナーは大人気でした。

科学講演会
山田康之「21世紀の食料と環境」
（3月19日）

2000年

館長のおもしろ科学講座
「電気と磁石のふしぎな関係」
（2月13日）

菊池館長も、毎年科学実験講座を開催しました。

2000年度
（平成12年度）

企画展「海のめぐみ」（7月8日～8月31日）

愛媛の漁業、水産業について模型や生体展示で紹介しました。

移動博物館開催（11月5日）

近隣小学校に出向いて博物館標本をみんなで観察しました。

館長のおもしろ科学講座「動くしくみ」（12月23日）

「動くしくみ」をテーマに、館長と学芸員が楽しい実験を披露しました。

東予芸術文化事業「民族音楽の調べ」（12月3日）

入館者数150万人達成！（8月17日）

科学講演会 坂村健「電脳社会を語る」（11月11日）

館蔵品展「夢と科学のたどった道～20世紀～」（12月9日～1月14日）

20世紀に発見された昆虫や動植物の標本、発明・開発されたオーディオビジュアル機器やゲーム機などを展示しました。

芸予地震発生（3月24日）

瀬戸内海安芸灘を震源とするマグニチュード6.7の地震が発生し、各地で被害が発生しました。新居浜市でも震度5弱を観測したものの、当館に被害はありませんでした。

2001年

2001年度
（平成13年度）

企画展「人体」（7月14日～8月31日）

人体標本を含めた様々な展示で、自分の体の仕組みを知り健康を考える機会となりました。

館長のおもしろ科学講座「超超！極寒実験室」（12月22日）

菊池館長と学芸員による実験実演付きの科学講演会。好評につき毎年恒例の行事となりました。今回は、ドライアイスや液体窒素を使った極低温条件での実験を実演しました。

わくわくワークショップ（8月13～15日）

学芸員が、友の会科学クラブ員と一緒に科学工作ワークショップを行いました。

JSTの助成を受け産業分野の出張授業スタート（2002年2月～）

JST地域科学館連携支援事業に採択され、小・中・高校へ出向いての出張授業がスタートしました。

企画展記念講演会 酒井健雄「人体を通して見る21世紀の生き方」（7月20日）

科学講演会 小平圭一「すばるに賭けた宇宙の夢」（11月11日）

元国立天文台長の小平桂一先生が、すばる望遠鏡の構造や観測成果についてわかりやすく解説されました。

館蔵品展「翼大空へ～航空機と空港を知る～」（3月17日～4月14日）

空港、航空機、航空図書室の3つのコーナーに分けて、空港で働く人の様子などを展示しました。

2002年

2002年度（平成14年度）

企画展「ふしぎミュージアム」（4月27日～5月26日）

不思議で楽しい科学の収蔵品を展示しました。

企画展「あなたの声を聞かせてください『仮想科学館』」（6月1日～6月30日）

どのタイプの科学技術資料が来場者の興味を得たか人気投票を行い、展示更新等の参考にしました。

館長のおもしろ科学講座「電気を作る」（12月21日）

身の回りの機器類に使われている、いろいろな発電技術について、実験の実演や来場者の体験を通じて紹介しました。

企画展「きれいないし」（3月22日～5月5日）

美しい色や形の鉱物や誕生石になっている鉱物、愛媛県産の岩石・鉱物、昭和30年代に全国の鉱山から集められた鉱石コレクションを展示しました。

2003年

特別展「花物語～花にかくされたひみつ～」（7月13日～9月1日）

「何のため、誰のために花は咲くのだろうか？」という疑問にスポットを当て、自然界に潜む植物と動物の巧妙な関係や花の歴史と未来について紹介しました。

イベント「夏だ！おもしろじっけん祭り」（8月13日～15日）

お盆のイベントに初めて迫力ある実験を行いました。

東予生涯学習県民講座 森村誠一「小説は人生の証明書」（11月10日）

科学記念講演会 小泉武夫「発酵の神秘」（11月16日）

科学技術館「不思議アベニュー」コーナーオープン（3月25日）

企画展「たんけん！超ふしぎ館」（1998年）で人気だった展示物を集めて、新コーナーを設置しました。

2003年度（平成15年度）

特別展「わくわく！エネルギー体験館」（7月12日～8月31日）

電気自動車Q-CARの試乗体験が大人気！今もエントランスに展示しています。

プラネタリウム番組「モペットくんの星空ウォッチング講座」投影（6月14日～9月7日）

プラネタリウムの池でお掃除ロボット「モペット」がプラネタリウム番組に登場しました。番組の声の出演を県内FM放送局のアナウンサーとパーソナリティーが担当しました。

入館者数200万人達成！（7月12日）

コラム：モペットくん引退

開館当初からプラネタリウムの池のお掃除ロボットとして活躍していました。「モップ」と「ペット」を合わせた名前のモペットくん、くるくると池を動き回る姿がユニークで子どもたちの人気者でした。

博物館をのぞいてみよう（8月27日）

普段見ることのできない収蔵庫や作業室など博物館の裏側を見学しました。

小柴昌俊講演会「物理屋になりたかったんだよ」（11月1日）

ノーベル賞受賞物理学者小柴昌俊氏による科学講演会を開催しました。多くの方が参加できるよう、新居浜市内の大ホールを会場としました。また、小柴氏と県内理数科高校生との意見交換会を実施しました。

2004年

館長のおもしろ科学講座「目で見る素粒子」（12月20日）

素粒子とは何か？その発見の歴史と発見に関係した実験や装置について、実際に実験や来場者の体験を交えながら紹介しました。講演で使った装置類は、現在も常設展示で公開しています。

企画展「愛媛の漁業 宇和海と瀬戸内海」（2月28日～5月9日）

2004年度
（平成16年度）

GWイベント「わくわくミュージアム」（5月3日～5日）

学芸員が、友の会科学クラブと一緒に熱気球・大気圧実験など毎日違うテーマの実験を実演しました。

企画展「みて！さわって！つくろう！昔のおもちゃ」（1月22日～2月20日）

昔のおもちゃを作ったり、遊んだりして物作りの大切さを学ぶほか、現在の遊びの形態や現在と昔のおもちゃの素材の素材の違いを紹介しました。

企画展「別子銅山写真展～日和佐初太郎のレンズが語る懐かしき時代～」（3月5日～5月15日）

昭和30年頃の銅山で働く人々の様子や町の風景、暮らし等の写真90点を展示しました。学芸員によるスライドショーも好評で、入場者数は2万人を超えました。

開館10周年記念イベント（11月13～14日）

記念式典やサイエンスライブショー、有馬朗人初代館長による科学講演会などを行いました。

2005年度
（平成17年度）

特別展「さわって！あそんで！おもしろ科学ワールド」（7月9日～9月４日）

2005年の世界物理年に合わせて、さまざまな物理法則や現象を実際に体験する展覧会を開催しました。体験装置のほぼ全てを内製し、開催後多くの装置を常設展示に移設しました。

科学講演会 福井康雄「大宇宙の誕生」（8月6日）

企画展「愛媛の鉄道写真展」（12月３日～1月29日）

愛媛県の鉄道の変遷を写真で巡るほか、愛媛の駅舎の写真を展示しました。

特別展「すごいぞ！むかしの生きもの」（7月10日～8月31日）

生命誕生から哺乳類に続く進化について展示し、生きものには、長い進化の歴史があることやどのように進化してきたのかを紹介しました。

館長のおもしろ科学講座「まわす まわる まわったら」（12月23日）

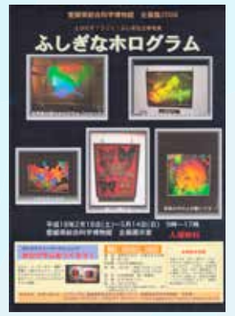
科学技術館「宇宙をめざして」コーナーオープン（3月）

H-ⅡAロケットエンジン模型や宇宙服、ジャイロスコープ体験展示などの新展示が導入されました。

日本科学技術振興財団会長 有馬朗人氏、名誉館長就任（4月１日）

プラネタリウム講演会 赤祖父俊一「オーロラを知ろう～赤祖父先生が語るオーロラのすべて～」（11月３日）

企画展「ふしぎなホログラム」（2月18日～5月28日）



平面の中に立体映像を記録した「ホログラム」の展覧会を開催しました。

イベント「みんな集まれ！わくわくサイエンス広場」（3月22日～23日）

この年から、理科教育を行う施設、企業、学校、団体などが当館に集まって、来館者に実験や工作を体験してもらうイベントが始まりました。

2006年度
（平成18年度）

特別展「昆虫No. 1決定戦」
（7月15日 ～9月3日）

昆虫の美しさ、賢さ、大きさ、強さのそれぞれNo.1を標本と生体を用いて展示しました。

企画展「秋の草花」
（9月16日～11月26日）

愛媛県内の里地・里山で観察することのできる草花100種類を写真と押し葉標本で展示しました。

企画展「WARNING!地球温暖化」
（12月２日～1月８日）

地球温暖化の問題を取り上げ、現状やメカニズム、今後の影響を解説するとともに、身の回りで見られる温暖化対策の取組などを紹介しました。

企画展「博物館講座展」
（3月24日～5月13日）

過去に開催した博物館講座について、成果品や講座内容の解説パネルで紹介しました。

企画展「八幡浜の水産業」
（1月20日～3月11日）

愛媛県八幡浜の水産業について、実際の操業映像や模型・資料などを展示しました。

2007年度
（平成19年度）

特別展「きら☆ぴか☆りん　ふしぎな光ミュージアム」
（7月14日～9月２日）

光をテーマに、きれいな色の光や不思議な錯覚を見せる作品を展示し、色や像の美しさや科学的性質について紹介しました。

企画展「愛媛の航空路　今昔」
（10月６日～12月２日）

松山空港や航空機の歴史について、実物資料、模型、写真や解説パネルなどを展示しました。

企画展「天体写真展　星空への招待」
（3月29日～5月25日）

天文学や自然科学への理解を深めるため、博物館及び天文クラブ所蔵の天体写真や望遠鏡などの機材を展示しました。

2007年

2008年

2008年度
（平成20年度）

特別展「KARAKURI メカのしくみと動きのヒミツ」（7月12日～8月31日）

身の回りにある道具や機械がどのような構造や仕組みで動いているかについて、からくり人形や作家作品など参加体験型の模型を中心に展示しました。

企画展「森のめぐみ　木のものがたり」（12月20日～1月30日まで）

動物剥製や植物標本の展示を通じて、森林の自然と歴史を紹介することで、森林の大切さに対する理解を深めました。

企画展「地衣類の世界」（2月28日～5月10日）

普段意識してみることの少ない地衣類の生物学的な位置づけ、分類、生態などについて、愛媛県内で採取した約200点の標本を用いて紹介しました。

2009年

企画展「おかしな機械」（10月４日～11月30日）

当館の科学技術研究科の収集資料である科学技術製品を、技術的な内容より歴史的な側面にスポットを当て、クイズを交えながらわかりやすく紹介しました。

入館者数300万人達成！（3月15日）

愛媛県立博物館（松山市堀之内）の閉館により、収蔵資料を当館に移管しました。（3月31日）

2009年度
（平成21年度）

特別展「トリックアート」（7月11日～8月31日）

目の錯覚を巧みに利用した不思議な感覚を楽しめる絵画「トリックアート」を展示しました。トリックアートの展示は当館が愛媛県初開催でした。

企画展「美とメイク」（12月12日～1月11日）

化粧品の役割やアンチエイジングなど、さまざまな視点から「美」をとらえました。
日本科学技術振興財団の巡回展で、当館も企画から参加しました。

かはくナイトミュージアム in Christmas（12月23日～25日）

クリスマスイベントとして初めて当館のライトアップを行いました。開館時間を21時まで延長して、暗闇の夜の常設展示も楽しめました。

2010年

指定管理者制度導入（4月1日）

当館は、平成21年４月１日からイヨテツケーターサービス株式会社（現：伊予鉄総合企画株式会社）が愛媛県から管理運営を引き継ぐこととなりました。

プラネタリウム光学式投影機GSS-HELIOS最終投影（9月27日）

プラネタリウムリニューアルオープン（3月20日）

「光学式投影機」の更新と「全天周デジタル映像システム」を組み合わせた、当時、世界最大のハイブリッド・プラネタリウムが完成しました。

マスコットキャラクター「カハクン」

「カハクン」は、人間に近いロボットの男の子です。手に持っているのはジョウロで、頭の芽は自然を表しています。博物館でたくさんのことを知る小さな子どもをイメージしています。

カハクン

2010年度（平成22年度）

小惑星探査機「はやぶさ」が、7年ぶりに地球に帰還（6月13日）

特別展「たんけん！ジャングルミュージアム」（7月10日～8月31日）

熱帯雨林に生息する昆虫を中心にした動植物を紹介しました。

JST女子中高生の理系進路選択支援事業 四国理系女子会（11月３日）

四国４県から理系の女子中高生が集まり、活発な意見交換が行われました。

企画展「なぎさの博物館砂浜」（2月26日～4月10日）

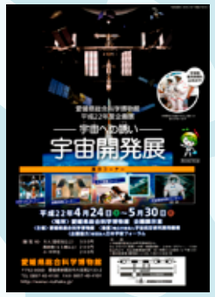
「サイエンス工房オープン」（3月15日）

親子で遊びながら学べる憩いのスペースとしてオープンしました。ここで様々な科学イベントも開催しています。

東日本大震災発生 東北地方を中心に甚大な被害が発生（3月11日）

2011年

企画展「宇宙への誘い～宇宙開発展～」（4月24日～5月30日）



初めて指定管理者の学芸員が開催した企画展です。日本宇宙フォーラムの協力で日本の宇宙開発を迫力ある資料で展示しました。

クリスマスイベント「サイエンスナイトミュージアム」（12月23日～25日）

館内外をイルミネーションで演出し、プラネタリウムでのハンドベル演奏会やバルーンアート×サイエンスショーなどを開催しました。
屋外のプロジェクションは指定管理者の学芸員が制作しました。

巡回展「森のめぐみ」（1月29日～3月13日）

正月イベント「新春！初科学」（1月２日～３日）

来館者の多くの要望に応えて、この年度から正月イベントを開催することにしました。

2011年度（平成23年度）

かはく貸出キット始まる

企画展「剥き出しの地球 南極大陸」（4月23日～6月５日）

愛媛県出身の報道写真家阿部幹雄氏が参加したセール・ロンダーネ山地地学調査隊の成果を紹介しました。

国立極地研究所と相互協力に関する協定を締結（10月１日）

極域科学や南極観測について更なる理解増進と知識の普及を図ることを目的として、国立極地研究所と相互協力に関する協定を締結しました。

新型恐竜ロボット完成・自然館リニューアルオープン（3月24日）

特別展「スリラー博士の恐怖の実験室」（7月９日～9月４日）

科学トリックや錯覚効果を用いた展示物や映像、演出を通じて、来場者が普段は体験できない不思議な感覚を味わえる展示を開催しました。

2012年

企画展「光で魚を捕る漁業」（2月25日～4月８日）

魚が光に集まる習性を利用した、集魚灯を使用する漁業について、その技術の変遷の紹介や実際の操業について展示しました。

テーマ展「東日本大震災と博物館資料～標本レスキュー活動の記録」（3月10日～4月15日）

東日本大震災から1年を迎えるにあたり、当館で行った資料レスキュー活動の実態と成果を紹介しました。併せて、震災で注目された資料レスキュー活動に関する報告や論文、震災被害を記録した資料も展示しました。

2012年度
（平成24年度）

巡回展「光の謎を解き明かせ!」
（4月21日～6月17日）

特別展「ディノ・ミュージ アム～恐竜の生態と進化～」
（7月14日～9月23日）

恐竜への理解を深めるため、各種恐竜の全身骨格や化石を展示しました。また、恐竜の起源と絶滅、生態と進化、海と空の爬虫類、日本の恐竜について紹介しました。

企画展「愛媛の博物誌」
（11月23日～1月27日）

愛媛県立博物館から引き継いだ貝類標本を中心に展示しました。また、県立博物館の開館に尽力した八木繁一氏についても紹介しました。

2013年

GWイベント開催
（5月3日～5日）

プログラムのひとつ「ドラム缶つぶし」

企画展「錯視の不思議」
（10月16日～11月11日）

見て触れて体験できる錯視展示を通じて、その不思議な感覚の仕組みや心理的な要素を紹介しました。

企画展「磁石と日本人」
（2月23日～4月7日）

磁石や磁石が使用されている家電製品の展示、磁石の性能を体験できるコーナー、日本人科学者の業績紹介を通じて、磁石開発の歴史を紹介しました。

2013年度
（平成25年度）

巡回展「科学捜査展」
（4月20日～6月23日）

特別展「南極の自然～観測活動とその成果～」
（7月13日～9月16日）

当館自然研究科の学芸員が参加した第54次南極観測隊（夏隊）の観測活動や、南極観測の研究成果について、写真、装備品、実物標本の展示を通じて紹介しました。

入館者数400万人達成!
（8月21日）

2014年

企画展「万華鏡の華麗な世界」
（11月23日～1月13日）

万華鏡の歴史や美しい模様ができる仕組みを体験しながら学べるよう、さまざまな万華鏡を展示しました。

企画展「鉱山絵葉書写真 ～産業近代化の胎動 時代の息吹を感じる～」
（3月15日～4月6日）

住友別子銅山を背景に産業の近代化が進む百年前の新居浜が写った鉱山絵葉書写真をパネル化して展示しました。

2014年度
（平成26年度）

学芸課にグループ制導入

指定管理者制度　第２期開始
（指定管理者イヨテツケーターサービス株式会社
平成31年３月31日まで）

特別展「大トリックアート展」
（7月13日～9月15日）

トリックアート特別展第２弾。トリックアートの新作に、強力な大型錯視体験装置も加えて、さらに撮影と錯覚の不思議を楽しみながら体験できる展示を開催しました。

４館合同特別展「村上海賊の世界-その風土と文化-」に参加
（9月27日～10月19日）

県立文化施設である歴史文化博物館、図書館、美術館と合同で開催し、ジャンルを超えて村上海賊の世界を紹介しました。

企画展「愛媛の絶滅危惧種～レッドデータブックと博物館～」
（10月11日～11月24日）

当館が取り組んできた資料収集の成果を基に、改訂版レッドデータブックに掲載予定の絶滅危惧種を紹介しました。併せて、生物の生息環境や生物多様性の保全の重要性についても紹介しました。

青色LEDの開発で中村修二博士、赤﨑勇博士、天野浩博士がノーベル物理学賞を受賞（10月）

2015年

開館20周年記念イベント開催
（11月８・９日）

記念式典や有馬朗人名誉館長による講演会「芸術や科学と対称性～東洋と西洋の見方の違い～」などを行いました。地元大生院地区の太鼓台4台が博物館に集合し、かきくらべで盛大にお祝いしていただきました。

企画展「青色発光ダイオードの発明」
（11月８日～4月５日）

愛媛県出身の中村修二博士がノーベル物理学賞受賞されたことを記念し、企画展を開催しました。中村博士が製作した青色LED表示試作機の展示や博士の功績の紹介をしました。また、2月2日には、受賞後初となる講演会を当館で開催しました。

企画展「教授を魅了した大地の結晶～北川隆司鉱物コレクション200選～」
（2月14日～4月５日）

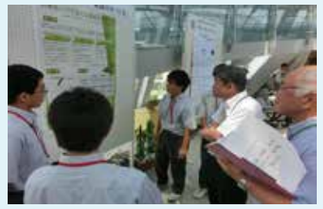
故北川教授が生涯にわたって収集した鉱物コレクションから、特に良質な標本を厳選し、色や結晶などの自然の造形美を楽しめる展示をしました。また、世界的に有名な愛媛の鉱物「輝安鉱」や、愛媛大学が合成した「ヒメダイヤ」も紹介しました。

2015年度
（平成27年度）

特別展「アマゾン～ホントはこんなトコだった!」
（7月18日～9月23日）

アマゾン川流域に生息する特色ある生き物を紹介。アナコンダの巨大ロボットが登場!!

中高生のためのかはく科学研究プレゼンテーション大会開催（8月９日）



未来の科学者を育てる事業の一環として実施している科学研究コンテストの第１回目を開催しました。

企画展「めぐみの海 瀬戸内海」
(12月12日～1月31日)

瀬戸内海国立公園指定80周年を記念し、瀬戸内海の豊かな自然環境や多様な生き物、人々の暮らしを紹介しました。また、海洋汚染や漂着ゴミなどの課題と、その解消に向けた取り組みも紹介しました。

2016年

企画展「なつかしの家電おどろきの道具」
（10月10日～11月23日）

当館資料と増田健一氏の昭和家電コレクションで昭和から平成時代の技術や生活を楽しむ展示。増田氏講演会や資料体験ツアーなど関連イベントも人気を博しました。

企画展「防災の科学～自然災害から身を守れ～」
（2月27日～4月10日）

自然災害はどのようして起こるのか!そのメカニズムを紹介。防災グッズも紹介!!

2016年度
（平成28年度）

特別展「えひめスゴ技展2016」
（7月9日～9月19日）

愛媛県内にあるものづくり企業の高い技術力を紹介しました。

企画展「地震を探る」
（12月3日～1月22日）

地震観測の画像や動画、調査機材、試料、県内の地震情報を通じて、地震の仕組みや観測方法、最新の研究成果を紹介しました。

講演会「ニホニウム～宇宙の元素誕生から113番元素合成まで～」
（3月26日）

日本発の新元素「ニホニウム」の命名を記念した科学講演会。つくばエキスポセンターと中継して双方向で実験やディスカッションを行いました。

2017年

市民講座「新しい医療をのぞいてみよう～iPS細胞と再生医療～」
（9月18日）

日本再生医療学会との共催で、京都大学iPS細胞研究所から講師を招き、新時代の医療に関する講演会とサイエンストークを行いました。このイベントは平成30年度まで続きました。

企画展「永久磁石～見て！触って！学ぼう～」
（10月8日～11月20日）

日本人科学者が携わってきた永久磁石開発を科学技術史として紹介しました。体験展示も人気を博しました。

企画展「地衣類～コケだけど、コケじゃない　藻類？菌類？～」
（2月18日～4月9日）

地衣類の体のつくりや多様な姿かたち、不思議な生き方、研究方法や利用産物など、地衣類の様々な魅力について紹介しました。
※同時開催「100均★自然史グッズ巡回展～身近な道具で自然観察を始めよう」

2017年度
（平成29年度）

特別展「VRスポーツサイエンス」
（7月8日～9月18日）

愛媛県での国体開催を契機に、県内のスポーツ競技について科学的に分析しながら体験展示や実物資料で紹介しました。県内プロスポーツ選手のVR体験も行いました。

市民講座「再生医療のいま未来～知っておきたいホントのトコロ～」
（12月10日）

日本再生医療学会との共催で、再生医療をテーマにした講演会と中高生とのサイエンストークイベントを開催しました。

企画展「ホネホネミュージアム」
（2月24日～4月8日）

普段は観察が難しい体内の骨格について、さまざまな動物の骨格標本を用い、その仕組みや働きを紹介しました。

企画展「案外すんでる！身近な生き物」
（2月24日～4月8日）

当館周辺に広がる里地・里山で観察できる動物や昆虫について、学芸員が２年間かけて実際に観察し撮影した写真や昆虫標本で紹介しました。

2018年

企画展「カハクンの大宇宙旅行展」
（4月22日～6月25日）

ISTS愛媛・松山大会の関連事業として、宇宙や天体のダイナミックな活動と進化について、宇宙旅行をテーマに楽しみながら学習する企画展示。VR火星旅行体験やミニチュア写真家田中達也氏の作品展示なども行いました。

企画展「東予産業遺産」
（10月7日～11月26日）

東予地域に残る産業遺産について、写真やパネルで紹介しました。

企画展「体験！エネルギーワールド」
（12月9日～1月28日）

生活に密接に関わるエネルギーについて、その変遷や種類ごとの特性を、体験装置などを用いて紹介しました。

入館者数500万人達成！
（3月10日）

2018年度（平成30年度）

海の日イベント「プラネ池であそぼう！ひんやりおもしろ大作戦」（7月14日～16日）

氷釣り大会や水鉄砲ボール落とし大会など楽しいイベントでプラネ池は盛り上がりました。

特別展「恐竜ロボットファクトリー」（7月21日～9月2日）

生きているかのように動く恐竜ロボットの製作工程を恐竜化石や体験展示を通じて紹介しました。

企画展「周期表発見150周年 元素のマトリクス～星々から生命への贈り物～」（2月23日～4月7日）

国際周期表年を記念して、周期表の発見・変遷・これから、隕石・鉱物・生命・考古・歴史・美術・文学に関連する元素、元素発見の歴史、最先端の元素研究など、実物資料や体験展示で紹介しました。

2019年

巡回展「ミクロライフ」（4月21日～6月3日）

柔らかい繊維や布を使って地下の森をイメージした展示空間で、命のつながりを体験で学ぶ展示。当館の資料を紹介するコーナーも人気でした。

特別展「光と鏡のサイエンスアート 魅惑の万華鏡ミュージアム」（9月22日～11月11日）

バラエティ豊かな万華鏡の美しい世界を紹介しました。

共催イベント「灯台記念日150周年記念イベント　これでわかった！灯台のしくみと役割」（10月27日・28日）

今治海上保安部と共催で、灯台に関する展示やイベント開催のほか、プラネタリウムコラボ投影を実施しました。

企画展「野生の王国ケニア」（11月23日～1月27日）

ケニアのマサイマラ国立保護区、アンボセリ国立公園などで観察できるライオン、ヌー、ゾウなどの野生生物を写真と剥製で紹介しました。

企画展「葉で見分ける常緑樹」（11月23日～1月27日）

一年中緑の葉を茂らせ、どれも同じように見えて見分けが難しい常緑樹の魅力を紹介しました。

2019年度（令和元年度）

指定管理者制度 第3期開始

（指定管理者伊予鉄総合企画株式会社 令和6年3月31日まで）

企画展「こわいものみたさ～恐怖を科学する～」（4月20日～6月23日）

ちょっと怖いけど確認したい、そんな人の不思議な感覚を体感できる展示しました。

特別展「からくりランドの大冒険！！～ゆかいなしかけのおもちゃたち～」（7月13日～9月1日）

からくりおもちゃの不思議な動きを体験できる世界を展示しました。

企画展「別子銅山・東平の思い出」（10月26日～12月1日）

別子銅山閉山前の東平地区の写真等を展示し、当時の暮らしや銅鉱石の採掘・運搬方法を紹介しました。

標本が語る自然の記憶

- 企画展「自然を記録しよう！標本の作り方」
- 企画展「理科室の宝物～学校収蔵標本から地域の自然を再考する～」

（2月22日～4月5日）

2020年

ノーベル賞受賞記念展示「リチウムイオン二次電池の発明」（12月7日～3月31日）

ノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏の業績を、県内企業関連実物資料を交えて紹介しました。

巡回展「国際周期表年2019特別展」（12月14日～1月26日）

国際周期表年実行委員会による特別展で、日本人周期表作家の作品やアジア人の新元素発見、元素標本、超大型周期表など、体験しながら元素と周期表に親しめる展示でした。

科学講演会「ヒッグス粒子の発見とダークマターの探索」（2月8日）

新居浜出身の物理学者、田中純一氏による講演会。素粒子研究と体験談をプラネタリウムのドームスクリーンに映し出しながら紹介しました。

2020年度（令和２年度）

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、臨時休館（4月18日～5月11日）

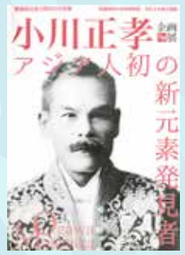
春の企画展は取りやめとなりました。（4月）

EHIME Flower Planet（12月2～8日）

名誉館長　有馬朗人氏　逝去（12月6日）

写真は11月28日に来館した時の様子です。

企画展「小川正孝　アジア人初の新元素発見者」（10月10日～11月29日）



愛媛県出身の化学者小川正孝の生涯とアジア人初の新元素発見について、実物資料を基に紹介しました。学芸員の研究成果を元にした企画展で、図録も作成しました。

「NHKサイエンススタジアム2020 with新しい日常」開催（12月5・6日）

当館のエントランスに設けたサテライト会場から東京の中継に参加しました。

臨時休館中「おうちでやってみよう！おもしろサイエンス」動画の投稿で情報発信（4～5月）

観望会「部分日食を見よう！」（6月21日）

夏至の日に起こった日食を観察しました。

特別展「世界の昆虫大集合」（7月18日～9月22日）

地球上のさまざまな環境に適応し、多様化を遂げた昆虫から強い・美しい・不思議なカタチなどの特色を持つ昆虫たちを紹介しました。

企画展「春待ちロゼット－冬を越す野草の姿－」（12月12日～1月31日）

2021年

展示案内を発行（3月1日）

企画展「無線電話でたどる通信技術史」（2月20日～4月11日）

2021年度（令和３年度）

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、臨時休館（4月17日～5月31日）

春の企画展は取りやめとなりました。（4月）

第７回中高生のためのかはく科学研究プレゼンテーション大会（8月8日）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインでの開催となりました。

地球の気候の物理的モデリング、気候変動の定量化、地球温暖化の確実な予測で真鍋淑郎博士（愛媛県出身）、クラウス・ハッセルマン博士がノーベル物理学賞を受賞（10月）

特別展「探検！化石の世界」（7月17日～9月20日）

生命の歴史を示す化石を通じて、生物進化や太古の地球環境、形のおもしろさや美しさなど、化石の魅力を紹介しました。

企画展「磁石工場をのぞいてみよう」（12月11日～1月30日）

サイエンススタジオ公開（4月1日）

3・4日には記念撮影会を開催しました。

企画展「学ぼう！電気が創る未来、体験しよう！電気のサイエンス」（10月9日～11月28日）

企画展「生誕100年ノーベル物理学受賞者 南部陽一郎」（10月9日～11月28日）

2022年

クリスマス実験バトルをライブ配信（12月25日）

企画展「見たことあるカイ？知ってるカイ？～貝の世界・不思議発見」（2月19日～4月11日）

2022年度（令和４年度）

山中俊治氏、第二代名誉館長に就任（4月1日）

〈プロフィール〉
1957年 松山市生まれ
愛光学園　東京大学工学部卒
東京大学大学院 情報学環／生産技術研究所教授
デザインエンジニア
愛媛県出身。大学の研究者とデザイナーとしての顔を持ち、Suica改札機、自動車、携帯電話等のデザインを手掛けるほか、技術者として、ヒューマノイドロボットやアスリートの義足の開発などにも携わっています。
（写真は7月４日に来館した時の様子です。）

真鍋淑郎ノーベル物理学賞受賞記念展示（4月1日～10月2日）

特別展「物理学者が出会った美の世界 カレイドスコープワンダーランド」（7月16日～9月19日）

万華鏡の模様が鏡による光の反射で生まれる仕組みを解説するほか、さまざまな万華鏡作家作品を展示しました。

企画展「スポーツの科学と道具のひみつ」（10月８日～11月27日）

プロ野球オールスターゲームの愛媛開催に合わせて実施しました。

講演会「生物がすむ果てはどこだ？」（11月６日）

2023年

特別展示「小惑星探査機「はやぶさ2」帰還カプセル&小惑星リュウグウのサンプル」（6月10日～6月14日）

10・11日は、開館延長してプラネタリウムでも紹介しました。

企画展「わくわく鉄道おもちゃパーク」（4月23日～6月26日）

愛媛の鉄道史についても展示しました。

企画展「愛媛の紙産業」（12月10日～1月29日）

企画展「天体写真で見る宇宙」（12月10日～1月29日）

ナイトミュージアムを開催（12月24・25日）

新型コロナウイルス感染症感染の流行以降で初めての開催となりました。

愛光学園と連携協定を締結（2月１日）

2023年度（令和５年度）

企画展「科学捜査展」（4月22日～6月25日）

愛媛県警察音楽隊のコンサートを実施（5月28日）

企画展「科学捜査展」の関連イベントで実施しました。

企画展「標本で観る季語の植物　秋冬編」（12月９日～1月28日）

入館者数600万人達成！（11月26日）

記念式典を開催しました。

企画展「来島海峡と潮流信号所」（2月17日～4月７日）

瀬戸内海国立公園指定90周年を記念して、県立の博物館３館が連携し、瀬戸内海がテーマの展示を開催しました。

2024年

特別展「みんなあつまれ！昆虫王国」（７月15日～９月24日）

強さを誇るカブトムシやクワガタムシ、美しさが際立つチョウ、擬態の名人であるコノハムシなど、特色豊かな昆虫たちを紹介しました。

企画展「プラネタリウムと愛媛」（10月７日～11月26日）

ブラック星博士の特別投影を実施（11月12日）

企画展「プラネタリウムと愛媛」の関連イベントで実施しました。

南極・昭和基地ライブトーク（３月23日）

南極・昭和基地と中継でつないでイベントを実施しました。

2024年度（令和6年度）

指定管理者制度 第4期開始
（指定管理者伊予鉄総合企画株式会社
令和11年3月31日まで）

特別展「シン・忍者」（4月20日～6月23日）

開館30周年記念特別展「未来をつくる：科学とデザインの実験室」（10月12日～12月１日）

山中俊治名誉館長が展覧会ディレクターを務め、初日には開展式を、11月３日には名誉館長による講演会を開催しました。

開館30周年記念式典を開催（11月３日）

2025年

企画展「石のワンダー」（12月14日～2月２日）

開館30周年のロゴマークを作成（4月）

特別展「スリラー博士の恐怖の実験室」（7月13日～9月23日）

「影の実験室」「音の実験室」「恐怖のワームトンネル」など、光、音、錯視の効果を体験できる展示を行いました。

企画展「宇宙で食べる・宇宙で生きる」（2月22日～4月６日）

開館30周年記念事業を実施（4月～）

開館30周年記念誌を発行（3月）

第２章

展示フロアー紹介

基本理念

愛媛県総合科学博物館は、県民の皆様に科学に関する正しい理解を深めるための学習機会を提供して創造的風土の醸成を図るとともに、科学技術の進歩と本県産業の発展に寄与することを目的として、平成６年11月、新居浜市に設置されました。

愛媛県の自然史・科学技術・産業に関する中核拠点として、愛媛県の自然史・科学技術・産業に関する資料の収集・整理・保存を行い、本県の貴重な資料を後世に確実に継承するとともに、調査研究活動を推進し、その地域的な特性等を明らかにし、効果的な情報発信を行い、研究成果を県民と共有します。また、資料収集や調査研究の成果に基づき、愛媛県の自然史・科学技術・産業を総括的に理解できる展示を行うとともに、特別展や企画展を積極的に実施し、来館者の主体的な学習を促進します。その他、各種イベント、博物館講座等の教育普及事業を実施し、県民が愛媛の自然史や産業、科学技術に親しむ機会を提供するとともに、地方公共団体、学校、社会教育施設、その他民間団体等と相互に連携協力しながら、地域の教育、学術、文化の振興等の活動を推進し、地域の活力向上の寄与に努めます。

展示コンセプト

愛媛県総合科学博物館は5つの棟から構成され、それぞれが円錐・正方形・三日月・球形といった特徴のある形をし、自然の成り立ちや科学する心をイメージした、近未来を予感させるモダンな建物をしています。展示施設は展示棟の3・4階にある「自然館」・「科学技術館」・「産業館」と屋外にある「屋外展示」・「プラネタリウム」で構成されています。

【自然館】

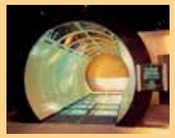
宇宙から地球、愛媛へとマクロからミクロにズームアップする構成となっており、来館者の好奇心を喚起する展示を行い、来館者が自ら学べるように工夫されています。地球のゾーンでは生物の出現と進化を、実物資料などで紹介し、愛媛のゾーンでは愛媛の自然を身近なものととして捉えれるよう、愛媛県に関する動植物の生態を紹介し、来館者の興味を引くよう配慮がなされています。

ティラノサウルス・トリケラトプス復元可動模型（初代）

愛媛ライブシアター

【科学技術館】

科学技術を「素」（元素の世界、物質の話など）、「生」（生命の神秘）、「伝」（光、音、電磁気など伝わる現象）、「動」（エネルギー、力など）の四つの身近なテーマから展開し、説明していく独特の考え方で構成しています。科学理論や法則の解説にとどまらず、科学技術史の視点も取り入れるとともに、科学技術を楽しみながら、わかりやすく学習できるように、各所に参加体験型の展示を配置しています。



光のトンネル

エネルギー変換五種競技

【産業館】

愛媛の基幹産業（農林水産、製紙、造船、鉱業、交通運輸、繊維、石油・化学・電力、機械・金属）の変遷を、実物資料、模型、映像、産業史年表などを組み合わせて、多角的に理解できる構成としています。また、県内の伝統的特産品を取り上げ、製品展示を行っています。

別子銅山

伝統産業コーナー

【屋外展示】

四阪島の銅製錬所で使用されていたグレイト・フォールズ型転炉や松山の湯山発電所で使用されていた水車と発電機等の大型展示物を配し、展示機能と自由なくつろぎの場を兼ね備えています。

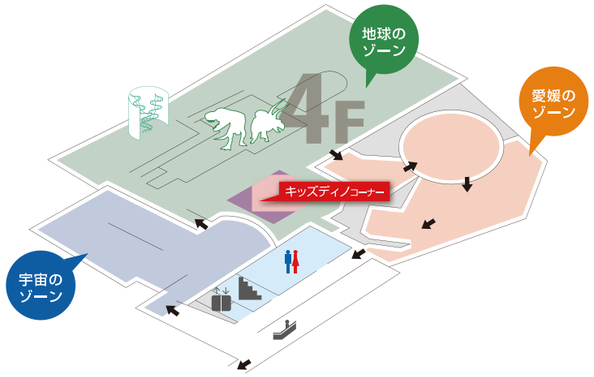
グレイト・フォールズ型転炉

【プラネタリウム】

ドームの直径が30ｍもある世界最大級のプラネタリウム。スクリーンに映しだされる季節毎の様々な星座を楽しみながら学習することができます。リニューアル後は、光学式投影機と全天周デジタル映像システムが完全一体となって制御される「ハイブリッド・プラネタリウム」が導入され、これまでより遥かに自由度の高い演出が可能となりました。

常設展示
自然館

自然館は、「宇宙」「地球」「愛媛」の3つのゾーンで構成し、大型の模型や映像を使い、自然の素晴らしさが再認識できる場を提供しています。



宇宙のゾーン

自然館の最初に位置する宇宙のゾーンでは、遠い宇宙から地球へとつながるように、宇宙の始まり、古代の宇宙観、宇宙論についての解説を展示しています。

展示更新によって、ダジックアースを導入したほか、Gaia衛星のデータを使用して作成した全天星図を展示するなど、新しい手法や観測の結果を反映させています。

実物資料として、SDSSのアルミプレートや隕石が展示されており、設置されているパソコンでは、天文シミュレーションソフトで星空を調べたり、天体画像を検索したりできます。

地球のゾーン

地球はどのようにしてできたのか、また生命はどのように誕生し、進化してきたのか。その問いに答えるため、生命の誕生から進化を軸に、地球の移り変わりを時代の流れに沿って紹介しています。

平成23年度にはティラノサウルスとトリケラトプスの恐竜ロボットが新しくなり、愛媛県立博物館と統合し移管された貴重な標本を活用し、大規模な展示更新が行われました。

愛媛のゾーン

愛媛県は西日本最高峰である石鎚山とその連山には緑豊かな森林が拡がり、特色のある動植物が生息しています。また、多くの島々が点在する瀬戸内海と、宇和海の複雑なリアス海岸は全国有数の美しい海の景観です。気候は、温暖な瀬戸内側と亜熱帯的な要素をみせる宇和海側、そして寒冷な山岳地帯と変化に富んでおり四季の移り変わりとともに様々な景観を見せてくれます。

開館以来、資料収集活動によって得られた動物分野、植物分野、地学分野の資料を展示しており、愛媛県立博物館との統合により移管されたニホンカワウソ剥製が充実しています。

常設展示

科学技術館

　科学技術館は、科学技術を「素」「生」「伝」「動」の４つの身近なテーマによって紹介し、楽しみながら学習できるよう参加型の体験装置を配置しています。

「見て触って動かして！科学を思いっきり楽しむ！」

科学技術館全景

　実物元素を展示した「立体周期表」、人気の巨大ボールコースター、ニュートリノやスーパーコンピューターなど最先端の科学技術も紹介しています。人間万華鏡や竜巻に触れることができる装置など参加体験型の展示も充実！楽しく科学技術に対する理解を深めることができます。

宇宙をめざして

　科学技術館入口にある日本の宇宙開発技術を紹介するコーナーです。日本の主力ロケットの一つ、H-IIAロケットエンジンの実物大模型や、宇宙開発技術の映像や実物資料、宇宙服のレプリカ、ロケットの飛ぶ仕組みやジャイロスコープの体験展示があります。

巨大なDNA二重らせん模型

　私たち生命の遺伝情報が書かれたDNAは、4種類の塩基で構成されており、らせん状に絡み合った長い鎖のような形をしています。天井を突き抜けるほど大きなDNA模型で、その構造や塩基配列についてわかりやすく紹介しています。

巨大ボールコースター

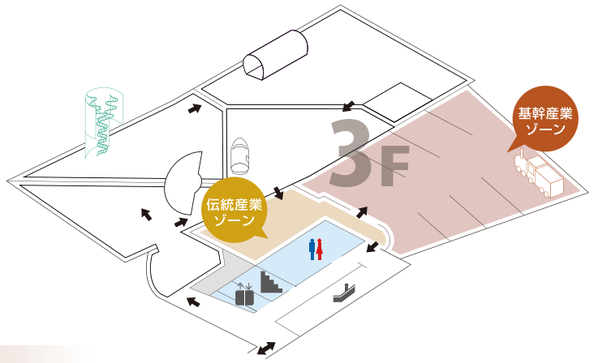
　ハンドルを回してボールを上から転がそう！位置エネルギーが、運動エネルギーや熱エネルギーや光のエネルギーに変換されます。ボールの動きが楽しい展示です。

大迫力のサイエンスショー!

　観覧者と対話しながらスタッフが実験実演を行うサイエンスショーは、いつも大人気です。実験のテーマは定期的に変わります。

常設展示

産業館



産業館は、愛媛の産業を「基幹産業」と「伝統産業」に区分し、実物、模型、グラフィック、映像、産業史年表などを展示しています。

伝統産業ゾーン

産業館に入るとまず、伝統産業ゾーンがあります。ここでは、愛媛県の伝統産業について、製品や製造道具などを展示しています。

伝統的特産品

愛媛県が指定している28品目(令和3年度)の伝統的特産品のうち、「手すき和紙」「水引・水引細工」「桜井漆器」「菊間瓦」「伊予絣」「砥部焼」「伊予竹工芸」「かまぼこ」の8分野の製品を展示しています

また、伝統的な和紙と金属箔を組み合わせたギルディング和紙についての展示を追加しました。

ギルディング和紙

内子町の和紙と金属箔を張り付けてデザインを施すフランスで生まれた手法を組み合わせた作品です。この和紙のデザインは蜘蛛の糸をモチーフにしており、幸せをたぐりよせるという意味があります。

基幹産業ゾーン

「農林水産」「製紙」「造船」「鉱業」「交通運輸」「繊維」「石油・化学・電力」「機械・金属」の８コーナーに分け、愛媛の産業のあゆみがわかる産業史年表や模型、実物、映像資料など展示をしています。

農林水産コーナー

愛媛県は温暖な気候や傾斜地を利用したみかんなどの柑橘産業が盛んで、全国でもトップクラス生産量を誇ります。展示では、みかんを大きさごとに選別する仙波式手回し選果機や、CCDカメラで画像分析して選別する選果機を展示しています。他に特徴的な水産業、林業、稲作業についても展示しています。

製紙コーナー

愛媛県四国中央市は、多くの製紙会社や紙加工業者が集まり、全国でも有数の紙製造の産地です。展示では、地元で製造される紙製品や紙の製造に関連した和紙原料叩解機、回転式三角乾燥機、ツインワイヤー抄紙機の模型などを展示しています。また、研究が進められているセルロースナノファイバー技術についても展示しています。

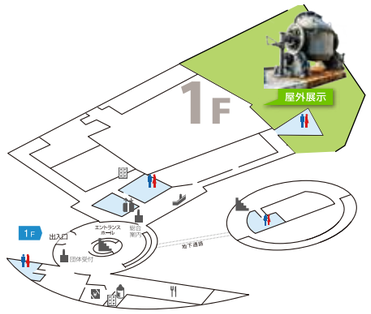
鉱業コーナー

愛媛県は、かつて各地で鉱山が稼働し、鉱業が盛んに行われていました。展示では、日本を代表する銅山である別子銅山や、最古かつ最大といわれたアンチモン鉱山である市之川鉱山に関する資料を紹介しています。

交通運輸コーナー

ここでは、愛媛県の交通運輸について紹介し、実物大の坊っちゃん列車レプリカのほか、県内で活躍した人力車、鉄道車両、水中翼船、YS－11などの模型を展示しています。

屋外展示場



屋外展示場には、四阪島の銅製錬で活躍したGF型転炉、カラミ電車のほか、水力発電の水車と発電機、火力発電のタービンロータ、タービンケーシング、製氷機用のコンプレッサーなどの大型展示物を展示しています。

グレイト・フォールズ(GF)型転炉

このＧＦ転炉は、1922(大正11)年9月から1960(昭35)年まで、四阪島の銅製錬所で使われていました。銅鉱石を溶鉱炉で溶かしてできた鉄や硫黄分を含む銅マットをGF転炉に入れ、転炉内に酸素吹き込むことで銅マットの鉄や硫黄分を分離し、銅品位を約60%から約98.5%まで高め、粗銅を生産しました。

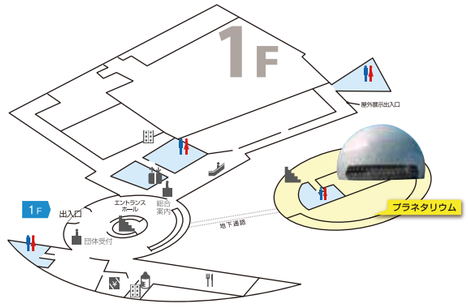
水車と発電機

伊予水力発電株式会社が1903年(明治36)年1月に営業を開始した四国初の水力発電所「湯山第一発電所」の水車と発電機です。ドイツのフォイト社製フランシス水車とアルゲマイネ社製発電機を使用し、当時世界最高水準の260kWを発電能力がありました。

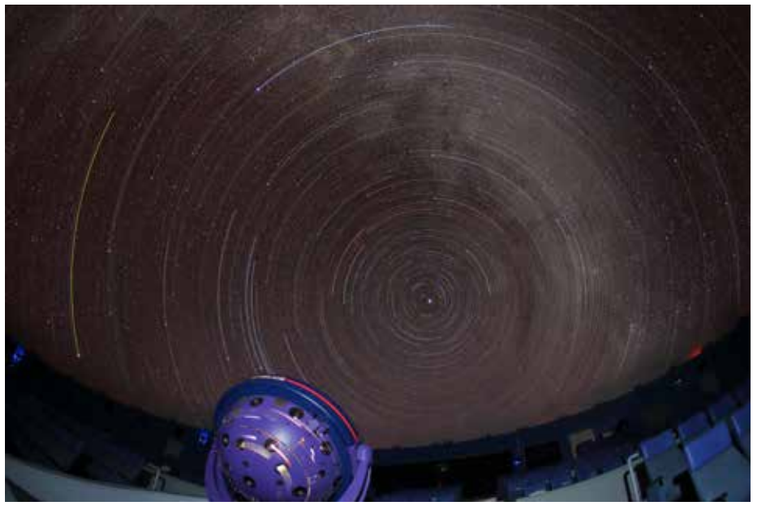
タービンロータ

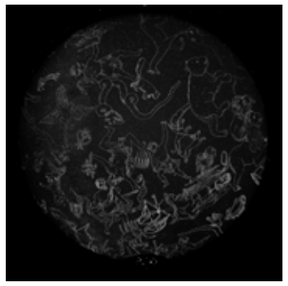
タービンロータとは、火力発電所や原子力発電所のタービン内で蒸気の圧力を受けて回転する羽根車のことです。この回転エネルギーを発電機に伝えることで電気を生み出します。高圧タービンロータと低圧タービンロータを組み合わせて、蒸気の圧力を効率よく利用します。このタービンロータは、新居浜市内の火力発電所で1936年（昭和11年）から使用されていました。

プラネタリウム



当館のプラネタリウムは、世界最大級の直径30mのドームを持ち、光学式投影機の星空と全天周デジタル映像システムの映像を組み合わせて投影を行います。前半約20分は「季節の星空」生解説を行い、後半25分は「宇宙・天文」「恐竜」などに関する全天周映像を投影しています。





星座解説ではデジタルの利点を生かし、自作イラストや宇宙空間でのシミュレーション映像を投影して、星座や宇宙に関する興味や理解を促す工夫をしています。

また、一般投影の他に、「ほしぞらパレット」、「熟睡プラ寝たリウム」など、職員が作成した全編生解説の特別投影も不定期に行っています。

プラネタリウムの入口では、愛媛県内で使用されていた投影機を展示しています。

天文台

当館の屋上には天文台があり、口径20cmのクーデ式屈折望遠鏡が備えられています。天体の観察や企画展・プラネタリウムで使う天体の撮影に使用されます。

また、屋上自体が広いため、天体観望会の会場とするほか、調査用の観測機器を設置したり、天体のタイムラプス動画の撮影機材を展開したりしています。

第３章

特別展示・企画展示

特別展示

常設展示だけでは展示できない自然や最新の科学技術などに関する分野の中から、話題性があり新鮮な興味を提供するテーマを選び実施しています。(平成13年までは企画展と表記していました。)

企画展「昆虫ワンダーランド」

1998年(平成10年) 7月11日～８月30日／総観覧者数　51,886人

【概要】地球上で最も多様性に富んで繁栄している生物の昆虫を取り上げ、その特色のある生態と形態を紹介しました。当時、生きている外国産のカブトムシ等の展示は貴重で、県内外から多くの来館者が集まりました。
【代表展示物】ヘラクレスオオカブトムシ、コーカサスオオカブトムシ、オオヒラタクワガタ、オウゴンオニクワガタ、ヒイロツマベニチョウ、ハナカマキリ

企画展「海のめぐみ」

2000年(平成12年) 7月８日～８月31日／観覧者数　37,070人

【概要】愛媛の水産業をテーマに、漁業、養殖漁業、水産加工の展示及び愛媛の海の魚介類の生態展示等を実施しました。
【代表展示物】実物漁具、養殖機器のほか、漁業や水産加工製造の映像、魚類の剥製などを多数展示しました。

特別展「すごいぞ！むかしの生きもの」

2004年（平成16年）7月10日～8月31日／総観覧者数　33,868人

【概要】生命誕生から哺乳類へ続く進化の過程を魚類や恐竜などの化石を展示しながら紹介しました。
【代表展示物】ストロマトライト、ユーステノプテロン、シーラカンス剥製、エリオプス全身骨格（レプリカ）、パラサウロロフス全身骨格（レプリカ）、スミロドン頭骨（レプリカ）ほか

特別展「トリックアート」

2009年(平成21年) 7月11日～８月31日／総観覧者数　90,755人

【概要】目の錯覚を巧みに利用した「立体に見える絵画」や「角度によって印象が変化する作品」である「トリックアート」の展覧会で愛媛県初開催でした。アートの一部となって撮影を楽しむ来館者で賑わいました。
【代表展示物】トリックアート、座標の部屋、逆さ文字、ペンローズの三角形、エイムズの部屋、モスキート―ンほか

特別展「ドキドキ体感ミュージアム　スリラー博士の恐怖の実験室」

1998年(平成10年) 7月11日～8月30日／総観覧者数　60,526人

【概要】スリラー博士のお城の中の「影の実験室」「光の実験室」などを巡りながら様々な科学現象を体感するエンターテイメント満載の展示です。ミステリーツアーや恐怖のサイエンスショーもあり、ちょっぴり怖くて不思議な展示室内は多くの入場者で賑わいました。
【主な展示】 虹を作る実験室、 恐怖のワームトンネル、 からくり家具

特別展「南極の自然～観測活動とその成果～」

2013年(平成25年) 7月13日～９月16日／総観覧者数　35,346人

【概要】学芸課の川又専門学芸員が参加した第54次南極観測隊(夏隊)での観測活動の詳細や近年の南極観測の研究成果等について、貴重な装備品や地衣類の標本を展示しました。
【代表展示物】ナンキョクヘリトリゴケ、ナンキョクロウソクゴケ、ナンキョクイワタケ、ナンキョクズミイボゴケ、クロヒゲゴケ、ナナバケチャシブゴケ

特別展「えひめスゴ技展2016」

2016年(平成28年) 7月９日～９月19日／観覧者数　24,461 人

【概要】愛媛県は、東予地方を中心にものづくり企業が集積し、臨海工業地帯が形成されています。ものづくり企業の高い技術力「スゴ技」を製品・パネル・映像・体験展示等により紹介しました。
【代表展示物】遊星歯車可動装置、可変施肥田植機、サカラック、鋳物、惑星探査機部品

特別展「からくりランドの大冒険!!～ゆかいなしかけのおもちゃたち～」

2019年(令和元年) 7月13日～９月１日／総観覧者数　39,589人

【概要】からくり作品に組み込まれた歯車やカムなどの機構や動力伝達の仕組みを紹介しました。複雑な機構の生み出す楽しい動きや木や紙で作られた素材のぬくもり、からくり作家たちの作品に込められたユーモアに触れることができ、動きの仕組みを楽しみながら発見できる展示でした。
【主な展示物】未来トンボ、コレット、ダンボール歯車、歯車模型、遊星歯車減速機、デュアルクラッチ、トランスミッションカットモデル、ベアリング、ピタゴラン、からくり作家作品、コログラッド

特別展「物理学者が出会った美の世界 カレイドスコープワンダーランド」

2022年(令和４年) 7月16日～９月19日／ 総入場者数　25,227人

【概要】入場者に万華鏡を実際に手に持って見て触れて体験してもらいながら、玩具、サイエンス、アートなどの多彩な魅力を発見してもらおうと企画しました。個性と魅力溢れるアート万華鏡を多数展示し、入場者を魅惑の世界へと誘いました。
【主な展示物】アート万華鏡、ミラー実験、カゲエドスコープ、戦後の万華鏡

特別展「未来をつくる: 科学とデザインの実験室」

2024年(令和６年)10月12日～12月１日／総観覧者数　4,209人

【概要】山中俊治名誉館長が展覧会ディレクターを務め、デザイナーと研究者が一緒に作った未来の技術を体験するための素材やマシン、それらのオリジナルスケッチを展示しました。東京以外の開催は当館だけで、県内外から多くの来館者が集まりました。

企画展示

常設展示だけでは展示できない自然や最新の科学技術などに関する分野の中から、話題性があり新鮮な興味を提供するテーマを選び実施しています。

館蔵品展「夢と科学のたどった道ー20世紀ー」

1998年(平成10年)７月11日～８月30日／総観覧者数　3,668人

【概要】20世紀100年間の発明・発見について当館収蔵資料を中心に紹介し、その意義や暮らしの変化を紹介しました。
【代表展示物】照明、レーザー、半導体、磁気記録、放射線、気象、絶滅危惧、外来種、エネルギー革命、化学繊維ほか

開館１０周年記念収蔵品展開催

2004年(平成16年)11月13日～2005年(平成17年)１月10日／観覧者数　14,700人

【概要】10年間で収集した貴重資料、研究への利用、収集意義を知らせる資料など自然、科学技術、産業の分野別に紹介。
【代表展示物】ニホンカワウソ、輝安鉱、活断層剥ぎ取り、巨大ホログラム、錯覚、ゲーム機、型銀瓶量計、選果機ほか

企画展「地衣類の世界 -地衣類って何だろう？ コケなの？ キノコなの？- 」

2009年(平成21年)２月28日～2010年(平成22年)５月10日／総観覧者数　6,360人

【概要】地衣類とは菌類と藻類とが共生した姿で、特殊化した菌類と定義されています。自然界では非常に地味な存在の地衣類に焦点を当て、自然を見る視点が増える企画展でした。
【代表展示物】イトゲジゲジゴケモドキ、ヤブレガサゴケ、イリタマゴゴケ、ツブミゴケ、ウスイロミヤマハナゴケ、ウメノキゴケ

企画展「めぐみの海・瀬戸内海」

2015年(平成27年)12月12日～2016年(平成28年)１月31日／総観覧者数　3,331人

【概要】海の学びミュージアムサポートの助成を受け、瀬戸内海の自然環境と生業について多面的に紹介する展示を開催しました。自然史系博物館ネットワークや、県内の漁業者・高等学校などと連携して、さまざまなイベントを実施しました。
【代表展示物】瀬戸内海地形模型、ナウマンゾウ骨格、多喜浜塩田の製塩用具・映像資料、海藻採集用具と海藻標本、動植物標本、魚類生体展示

企画展「防災の科学～自然災害から身を守れ～」

2016年(平成28年) ２月27日～４月10日／総観覧者数　7,980人

【概要】防災をテーマに、地震などの自然現象と災害発生のメカニズム、過去に起こった大規模災害、災害から身を守る方法や知識を解説しました。防災減災グッズ展示のほか、サラダ油ランプの作り方など災害時に役立つ科学の方法を紹介し、地震体験などのイベントも行いました。
【代表展示物】長周期地震動実験、活断層標本、防災食、消防士になろう

企画展「地震を探る」

2016年（平成28年）12月3日～2017年（平成29年）1月22日／総覧者数　6,200人

【概要】地震の仕組みや地震の観測や調査の方法、最近の地震研究の成果、愛媛で起こる地震について紹介しました。
【代表展示物】活断層剥ぎ取り標本、東北地方太平洋沖地震断層サンプル（複製）、津波堆積物コア標本など。

巡回展「国際周期表年2019特別展」

2019年(令和元年)12月９日～2020年(令和２年)１月26日／観覧者数　10,178人

【概要】当館企画展を基に増強・再構成し、国際周期表年ワールドエンディングイベントに出展した巡回展の愛媛里帰り展
【代表展示物】巨大周期表、鉱物標本、体験装置、国内周期表作家作品、日本人の新元素発見、日本人の元素研究の成果

企画展「無線電話でたどる通信技術史」

2021年(令和3年)２月20日～４月11日／総観覧者数　10,418人

【概要】有線電話の交換機や電話機の変遷、無線電話の発展と移動通信の進化について機器や製品を展示のほか、愛媛県の電話回線開通の歴史も紹介しました。
【代表展示物】手動交換機、自動交換機、卓上電話機、公衆電話機、TYK無線電話機、ショルダーフォン、フィーチャーフォン、初期のスマートフォンなど

特別展示「小惑星探査機「はやぶさ2」帰還カプセル&小惑星リュウグウのサンプル特別展示」

2022年(令和４年)６月10日～６月14日／観覧者数　2,062人

【概要】小惑星の実物サンプルの巡回展示を全国で最初に開催した。実物資料に加えて、解説パネルで探査機の現状を紹介しました。
【代表展示物】小惑星探査機「はやぶさ２」帰還カプセル、小惑星リュウグウのサンプル、サンプルコンテナ輸送BOXなど

企画展「プラネタリウムと愛媛」

2023年(令和５年)10月７日～11月26日／総観覧者数12,565人

【概要】近代プラネタリウムが開発されて100周年に合わせ、投影機のしくみの解説、愛媛県内のプラネタリウムの紹介を行いました。
【代表展示物】プラネタリウム投影機、恒星投影筒、補助投影機、スライド、図面、過去の番組ポスター・チラシなど

瀬戸内海国立公園指定90周年 企画展「来島海峡と潮流信号所」

2024年(令和６年)２月17日～2025年(令和７年)４月７日／総観覧者数13,383人

【概要】瀬戸内海国立公園90周年を記念し、来島海峡の潮流、潮流信号所、航行船舶などの展示を通じて、海の魅力と理解を深める機会を提供しました。また海の学びミュージアムサポートの助成を受けました。
【代表展示物】来島海峡航路の航法解説ジオラマ、中渡島潮流信号所ジオラマ、アゴの鼻灯台灯器など

特別展一覧（平成 13 年までは企画展と表記）

年　度	タ　イ　ト　ル	期　間
1995年度 (平成７年度)	企画展「ロボットの歴史と未来」	1996年２月10日～３月30日
1996年度 (平成８年度)	企画展「恐竜」	1996年７月14日～９月１日
1997年度 (平成９年度)	企画展「出発進行！愛媛の鉄道　～坊っちゃん列車から未来の鉄道～」	1997年７月13日～８月31日
1998年度 (平成10年度)	企画展「たんけん！超ふしぎ館」	1998年７月11日～８月30日
1999年度 (平成11年度)	企画展「昆虫ワンダーランド」	1999年７月10日～８月31日
2000年度 (平成12年度)	企画展「海のめぐみ」	2000年７月８日～８月31日
2001年度 (平成13年度)	企画展「人体」	2001年７月14日～８月31日
2002年度 (平成14年度)	特別展「花物語　花にかくされたひみつ」	2002年７月13日～９月１日
2003年度 (平成15年度)	特別展「わくわく！エネルギー体験館」	2003年７月12日～８月31日
2004年度 (平成16年度)	特別展「すごいぞ！むかしの生きもの」	2004年７月10日～８月31日
2005年度 (平成17年度)	特別展「さわって！あそんで！おもしろ科学ワールド」	2005年７月９日～９月４日
2006年度 (平成18年度)	特別展「昆虫No. 1決定戦」	2006年７月15日～９月３日
2007年度 (平成19年度)	特別展「きら☆ぴか☆りん　ふしぎな光ミュージアム」	2007年７月14日～９月２日
2008年度 (平成20年度)	特別展「KARAKURI　メカのしくみと動きのヒミツ」	2008年７月12日～８月31日
2009年度 (平成21年度)	特別展「トリックアート」	2009年７月11日～８月31日
2010年度 (平成22年度)	特別展「たんけん！ジャングルミュージアム」	2010年７月10日～８月31日
2011年度 (平成23年度)	特別展「ドキドキ体感ミュージアム　スリラー博士の恐怖の実験室」	2011年７月９日～９月４日
2012年度 (平成24年度)	特別展「ディノ・ミュージアム～恐竜の生態と進化～」	2012年７月14日～９月23日
2013年度 (平成25年度)	特別展「南極の自然～観測活動とその成果～」	2013年７月13日～９月23日
2014年度 (平成26年度)	特別展「大トリックアート展」	2014年７月13日～９月15日
2015年度 (平成27年度)	特別展「アマゾン～ホントはこんなトコだった！～」	2015年７月18日～９月23日
2016年度 (平成28年度)	特別展「えひめスゴ技展２０１６」	2016年７月９日～９月16日
2017年度 (平成29年度)	特別展「ＶＲスポーツサイエンス」	2017年７月８日～９月18日
2018年度 (平成30年度)	特別展「恐竜ロボットファクトリー」	2018年７月21日～９月２日
	特別展「～光と鏡のサイエンスアート～ 魅惑の万華鏡ミュージアム」	2018年９月22日～11月11日
2019年度 (令和元年度)	特別展「からくりランドの大冒険!!～ゆかいなしかけのおもちゃたち～」	2019年７月13日～９月１日
2020年度 (令和２年度)	特別展「世界の昆虫大集合」	2020年７月18日～９月22日
2021年度 (令和３年度)	特別展「探検！化石の世界」	2021年７月17日～９月20日
2022年度 (令和４年度)	特別展「物理学者が出会った美の世界　カレイドスコープワンダーランド」	2022年７月16日～９月19日
2023年度 (令和５年度)	特別展「みんなあつまれ！昆虫王国」	2023年７月15日～９月24日
2024年度 (令和６年度)	特別展「シン・忍者展」	2024年４月20日～６月23日
	特別展「ドキドキ探検ミュージアム　スリラー博士の恐怖の実験室」	2024年７月13日～９月23日
	特別展「未来をつくる: 科学とデザインの実験室」	2024年10月12日～12月１日

企画展等一覧

年　度	タ　イ　ト　ル	期　間
1995年度 (平成７年度)	巡回展「エネルギー体験館」	1995年６月10日～６月25日
	夏休み特別展「夏だ！おもしろ博物館」	1995年８月13日～８月31日
1997年度 (平成９年度)	特別展「欧米の科学博物館」	1997年４月26日～５月25日
	特別展「「宇宙開発の過去・現在・未来」	1997年10月25日～11月24日
1998年度 (平成10年度)	テーマ展「川の生きもの」	1998年４月29日～５月10日
	特別展「自然科学写真協会写真展」	1998年９月12日～９月20日
	特別展「愛媛の鉱山」	1999年３月６日～４月11日
1999年度 (平成11年度)	特別展「日本自然科学協会写真展」	1999年10月９日～11月７日
	特別展「ふしぎ大陸 南極展」	1999年12月11日～１月16日
	館蔵品展「海の森・海藻の世界」	2000年３月19日～５月７日
2000年度 (平成12年度)	特別展「日本自然科協会学写真展」	2000年10月７日～10月29日
	館蔵品展「夢と科学のたどった道～２０世紀～」	2000年12月９日～１月14日
2001年度 (平成13年度)	館蔵品展「干潟の自然」	2001年４月24日～５月６日
	巡回展「すばる望遠鏡－宇宙を探る新しい眼－」	2001年05月19日～６月10日
	特別展「日本自然科学協会写真展」	2002年２月23日～３月10日
	館蔵品展「翼大空へ～航空機と空港を知る～」	2002年３月17日～４月14日
2002年度 (平成14年度)	企画展「ふ・し・ぎミュージアム」	2002年４月27日～５月26日
	企画展「仮想科学館」	2002年６月１日～６月30日
	特別展「日本自然科学協会写真展」	2002年11月２日～11月17日
	企画展「愛媛のキノコ～華麗なる森の芸術家たち～」	2002年12月21日～２月２日
	企画展「昔の遊び！今の遊び！」	2003年２月８日～２月16日
	企画展「植物のおぼえ方」	2003年２月27日～３月16日
	企画展「きれいないし」	2003年３月22日～５月５日
2003年度 (平成15年度)	企画展「愛媛の野鳥～写真で見る野鳥観察～」	2003年５月11日～５月25日
	企画展「消えゆくいきものたち」	2003年６月１日～６月22日
	企画展「渡る蝶」	2003年９月20日～10月19日
	巡回展「日本自然科学協会写真展」	2003年10月25日～11月９日
	巡回展「ふれあい宇宙フェスティバル～“きぼう”の世紀へ～」	2003年12月13日～１月18日
	企画展「身の回りのサイエンス～かんきょう～」	2004年１月24日～２月15日
	企画展「愛媛の漁業　宇和海と瀬戸内海」	2004年２月28日～５月９日
2004年度 (平成16年度)	企画展「侵入者たち～外来生物について～」	2004年５月22日～６月20日
	開館１０周年記念収蔵品展	2004年11月13日～１月10日
	企画展「みて！さわって！つくろう！昔のおもちゃ」	2005年１月22日～２月20日
	企画展「別子銅山写真展～日和佐初太郎のレンズが語る懐かしき時代～」	2005年３月５日～５月15日
2005年度 (平成17年度)	企画展「第２６回自然科学写真協会愛媛展」「内藤洋写真展－南極・動物の夏－」	2005年10月22日～11月20日
	企画展「愛媛の鉄道写真展」	2005年12月３日～１月29日
	企画展「ふしぎなホログラム」	2006年２月18日～５月28日
2006年度 (平成18年度)	企画展「秋の草花」	2006年９月16日～11月26日
	企画展「WARNING！地球温暖化」	2006年12月２日～１月８日
	企画展「八幡浜の水産業」	2007年１月20日～３月11日
	企画展「博物館講座展」	2007年３月24日～５月13日
2007年度 (平成19年度)	企画展「愛媛の航空路　今昔」	2007年10月６日～12月２日
	企画展「自然科学写真協会写真展」	2008年２月10日～３月９日
	企画展「天体写真展　星空への招待」	2008年３月29日～５月25日
2008年度 (平成20年度)	企画展「おかしな機械」	2008年10月４日～11月30日
	巡回展「毛利宇宙飛行士の部屋」	2008年12月４日～12月28日
	企画展「森のめぐみ　木のものがたり」	2009年２月28日～５月10日
	企画展「地衣類の世界」	2009年２月28日～５月10日
2009年度 (平成21年度)	巡回展「霧箱」	2009年７月４日～９月10日
	巡回展「日本の宇宙科学の歴史」	2009年10月３日～10月27日
	巡回展「SSP写真展」	2009年10月10日～11月８日
	巡回展「美とメイク」	2009年12月12日～１月11日
	巡回展「森のめぐみ」	2010年２月６日～３月14日
	企画展「昔のおもちゃ、今の玩具」	2010年２月27日～４月11日
2010年度 (平成22年度)	企画展「宇宙への誘い～宇宙開発展～」	2010年４月24日～５月30日
	巡回展「SSP写真展」	2010年10月９日～10月31日
	巡回展「ガリレオの天体観測から400年－宇宙の謎を解き明かす－」	2010年12月11日～１月30日
	巡回展「エネルギー商店街」	2010年12月12日～４月７日
	巡回展「森のめぐみ」	2011年１月29日～３月13日
	企画展「なぎさの博物館 砂浜」	2011年２月26日～４月10日
2011年度 (平成23年度)	企画展「剥き出しの地球 南極大陸」	2011年４月23日～６月５日
	巡回展「森の博物館」	2011年10月８日～11月13日
	巡回展「科学市場」	2011年11月12日～３月27日
	企画展「おもちゃの今昔～素材と技術の移り変わり～」	2011年12月10日～１月29日
	企画展「光で魚を捕る漁業」	2012年２月25日～４月８日
	テーマ展「東日本大震災と博物館資料～標本レスキュー活動の記録～」	2012年３月10日～４月15日
2012年度 (平成24年度)	巡回展「光の謎を解き明かせ！」	2012年４月21日～６月17日
	巡回展「科学技術の「美」パネル展」	2012年４月28日～６月24日
	企画展「錯視の不思議」	2012年10月６日～11月11日
	企画展「愛媛の博物誌」	2012年11月23日～１月27日
	企画展「磁石と日本人」	2013年２月23日～４月７日
2013年度 (平成25年度)	巡回展「科学捜査展」	2013年４月20日～６月23日
	巡回展「オーロラ～宇宙からの手紙～」	2013年９月７日～９月16日
	巡回展「マリー・キュリー業績ポスター展」	2013年10月５日～11月10日
	企画展「万華鏡の華麗な世界」	2013年11月23日～１月13日
	巡回展「科学技術の『美』パネル展」	2013年12月７日～２月16日
	企画展「鉱山絵葉書写真～産業近代化の胎動 時代の息吹を感じる～」	2014年３月15日～４月６日
2014年度 (平成26年度)	巡回展「深海探検～海底二万里の世界へ～」	2014年4月19日～6月22日
	巡回展「私達のかけがえのない海～はじめての海科学～パネル展」	2014年４月26日～６月22日
	巡回展「地球から宇宙へパネル展」	2014年７月19日～８月31日
	企画展「愛媛の絶滅危惧種『レッドデータブックと博物館』」	2014年10月11日～11月24日
	企画展「青色発光ダイオードの発明」	2014年11月８日～４月５日
	企画展「紙の機能と科学」	2014年12月６日～１月25日
	企画展「教授を魅了した大地の結晶－北川隆司鉱物コレクション200選－」	2015年２月14日～４月５日
2015年度 (平成27年度)	巡回展「こわいものめぐり～わたしたちが恐怖を感じるまで～」	2015年４月18日～６月21日
	巡回展「はやぶさ君の冒険日誌パネル展」	2015年４月25日～６月21日
	巡回展「生物多様性～人と自然の共存へパネル展」	2015年７月18日～９月23日
	企画展「なつかしの家電おどろきの道具』」	2015年10月10日～11月23日
	巡回展「森に親しむ博物館」	2015年10月17日～11月８日
	企画展「めぐみの海　瀬戸内海」	2015年12月12日～１月31日
	企画展「防災の科学～自然災害から身を守れ～」	2016年２月27日～４月10日

年　度	タ　イ　ト　ル	期　間
2016年度 (平成28年度)	巡回展「日時計の楽しみ」	2016年４月16日～６月26日
	巡回展「科学捜査展SEASON2」	2016年４月23日～６月26日
	巡回展「月のふしぎ」	2016年９月17日～11月27日
	企画展「永久磁石～見て！触って！学ぼう！～」	2016年10月８日～11月20日
	巡回展「森に親しむ博物館」	2016年10月15日～11月６日
	企画展「地震を探る」	2016年12月３日～１月22日
	企画展「地衣類～コケだけどコケじゃない藻類？菌類？～」	2017年２月18日～４月９日
	巡回展「100均☆自然史グッズ巡回展」	2017年２月18日～４月９日
2017年度 (平成29年度)	企画展「カハクンの大宇宙旅行展」	2017年４月22日～６月25日
	企画展「東予産業遺産」	2017年10月７日～11月26日
	パネル巡回展「太陽のふしぎ」	2017年10月21日～11月19日
	巡回展「森に親しむ博物館」	2017年10月14日～11月５日
	企画展「体験！エネルギーワールド」	2017年12月９日～１月28日
	企画展「案外すんでる！身近な生き物」	2018年２月24日～４月８日
	企画展「ホネホネミュージアム」	2018年２月24日～４月８日
2018年度 (平成30年度)	企画展「ミクロライフ展」	2018年４月21日～６月３日
	巡回展「森に親しむ博物館」	2018年10月13日～11月４日
	企画展「野生の王国ケニア」	2018年12月９日～１月27日
	企画展「葉で見分ける常緑樹」	2018年12月９日～１月27日
	企画展「元素のマトリクス～星々から生命への贈り物～」	2019年２月23日～４月７日
2019年度 (令和元年度)	企画展「こわいものみたさ～恐怖を科学する～」	2019年４月20日～６月23日
	テーマ展「越智勇一という人」	2019年４月27日～５月26日
	巡回展「森に親しむ博物館」	2019年10月12日～11月３日
	パネル巡回展「金星探査機『あかつき』」	2019年10月26日～12月１日
	企画展「別子銅山・東平の思い出」	2019年10月26日～12月１日
	ノーベル賞受賞記念展示「リチウムイオン二次電池の発明」	2019年12月７日～３月31日
	巡回展「国際周期表年2019特別展」	2019年12月14日～１月26日
	企画展「自然を記録しよう！標本のつくり方」	2020年２月22日～４月５日
	企画展「理科室の宝物～学校収蔵標本から地域の自然を再考する～」	2020年２月22日～４月５日
2020年度 (令和２年度)	企画展「パズル展～パズル島へようこそ～」	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
	ロビー展「森に親しむ博物館」	2020年９月26日～11月８日
	企画展「小川正孝　アジア人初の新元素発見者」	2020年10月10日～11月29日
	パネル巡回展「こちら『はやぶさ２』運用室 漫画版」	2020年10月31日～11月29日
	企画展「春待ちロゼット～冬を越す野草の姿～」	2020年12月12日～１月31日
	企画展「無線電話でたどる通信技術史」	2021年２月20日～４月11日
2021年度 (令和３年度)	企画展「パズル展～パズル島へようこそ～」	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
	パネル巡回展「いのちってなに？」	2021年７月17日～8月31日
	ロビー展「森に親しむ博物館」	2021年９月25日～11月７日
	企画展「学ぼう！電気が創る未来、体験しよう！電気のサイエンス」	2021年10月９日～11月28日
	巡回展「生誕100年 ノーベル物理学賞受賞者 南部陽一郎展」	2021年10月９日～11月28日
	企画展「磁石工場をのぞいてみよう」	2021年12月11日～１月30日
	企画展「見たことあるカイ？知ってるカイ？～貝の世界・不思議発見」	2022年２月19日～４月11日
2022年度 (令和４年度)	真鍋淑郎ノーベル物理学賞受賞記念展示	2022年４月１日～10月２日
	企画展「わくわく鉄道おもちゃパーク」	2022年４月23日～６月26日
	「小惑星探査機『はやぶさ2』帰還カプセル&小惑星リュウグウのサンプル特別展示」	2022年６月10日～６月14日
	ロビー展「森に親しむ博物館」	2022年９月24日～11月６日
	企画展「スポーツの科学と道具のひみつ」	2022年10月８日～11月27日
	企画展「天体写真で見る宇宙」	2022年12月10日～１月29日
	企画展「愛媛の紙産業」	2022年12月10日～１月29日
	パネル巡回展「SDGs（持続可能な開発目標）クイズボード」	2023年２月１日～３月31日
	企画展「標本で観る季語の植物 春夏編」	2023年２月18日～４月９日
2023年度 (令和５年度)	企画展「科学捜査展」	2023年４月22日～６月25日
	ロビー展「森に親しむ博物館」	2023年９月23日～11月５日
	パネル巡回展「海と生きものとわたしたち ～3.11からの復興をめざして～」	2023年９月28日～11月30日
	企画展「プラネタリウムと愛媛」	2023年10月７日～11月26日
	企画展「標本で観る季語の植物　秋冬編」	2023年12月９日～１月28日
	瀬戸内海国立公園指定90周年 企画展「来島海峡と潮流信号所」	2024年２月17日～４月７日
2024年度 (令和６年度)	パネル巡回展「星の衝突で何ができた？」・「62の『月』が織りなす多彩な世界」	2024年９月14日～11月17日
	ロビー展「森に親しむ博物館」	2024年９月21日～11月10日
	企画展「石のワンダー」	2024年12月14日～２月２日
	企画展「宇宙で食べる・宇宙で生きる」	2025年２月22日～４月６日

第４章

資料収集

資料収集

当博物館では、地域博物館としての機能を果たすため、資料の収集を行っています。収集した資料は、適切な処理を施し保存、系統的な整理を行い、地域の共有財産として活用することとしています。

自然史部門

自然研究グループでは、本県を中心とした地域性と一般法則を体系的に学べる地域博物館の役割を果たすための共有財産として、動物・植物・地学・天文の自然史各分野において収集活動を行なっています。

資料収集・動物分野

開館から30年にわたる資料収集活動の結果、動物分野の資料点数は15万点を越えました。これまでの30年を大きく前後半に分けると、脊椎動物分野では学芸員自らの収集活動や地域調査によって得られたものが多い傾向にあります。資料の蓄積がない状態で開館したこともあり、初期は斃死鳥獣の取得等によって地域的なコレクションの形成にも力を入れていました。昆虫分野については、国内外の基本的な種の標本を購入し、大規模な展示に対応できる一般的かつ網羅的なコレクションの形成を進めながら、同時に県内での収集活動を行なってきました。後期では県立博物館との統合に代表されるような、組織からの資料移管や個人コレクションの寄贈などが増えています。

動物分野での重要な標本としては、県内の個人や学校等から寄贈を受けたニホンカワウソ関連標本、学校から寄贈を受けた明治から昭和期の教育用標本、瀬戸内海で漂着採集された鯨類の骨格やウミガメ類剥製等があります。

資料収集・植物分野

植物分野を動物界以外の生き物と広く捉え、愛媛県の植物相を明らかにするために、愛媛県内に生育する花の咲く種子植物をはじめ、シダ植物やコケ植物、菌類、地衣類、藻類等を収集しています。

学芸員が調査研究活動によって収集した標本の他に、これまで愛媛県内で研究活動をされてき山本一氏をはじめとする芥川正次郎氏、石川早雄氏、伊藤隆之氏、上窪田康義氏、野村義弘氏、藤田幹雄氏、三好保徳氏、山本四郎氏、五十音順）等の個人コレクション（標本集）の寄贈を受けてきました。さらに平成23年度に愛媛県立博物館と統合された事で多くの標本を収集しています。

資料収集・地学分野

愛媛県産の岩石、鉱物、化石標本及び地質や地形に関する写真資料を収集しています。あわせて、特性を把握するための比較標本や、展示資料として国内外の標本の収集にも努めています。

地学分野における主な標本には、県内の市之川鉱山から産出した輝安鉱や、別子鉱山を含む県内各地の鉱山から産出した鉱物・鉱石標本、さらに愛媛県周辺の海域から産出したナウマンゾウ化石などが含まれます。

収集方法としては、調査活動を通じた採集、購入、寄贈があり、平成23年度に統合された愛媛県立博物館からの移管資料も含まれます。主な寄贈標本としては、愛媛大学・宮久三千年氏の鉱物コレクション、奥平幹一氏の鉱物コレクション、旧四国通商産業局鉱石コレクション、鶴見祥夫氏の鉱石コレクションが挙げられます。また、ナウマンゾウ化石も様々な方からの寄贈を受けています。

収集した資料については、調査、整理、データベース化を行い、インターネット上での公開を進めています。寄贈された鶴見祥夫鉱石コレクション約2,400点に関しては、資料目録を発行しました。

資料収集・天文分野

天文分野では、天体や天文現象を撮影したデジタルデータを中心に収集しています。

実物資料としては、愛媛新聞プラネタリウム関連資料や寄贈を受けた望遠鏡など、天文に関する資料を所蔵しています。

科学技術部門

科学技術の調査研究や展示等の目的のための資料を収集しています。家電製品や電話機、電球や電気部品類、ゲーム機、それら製品のカタログやパッケージ、ソフトウェアなど国内の技術の変遷がわかる製品、半導体・鉱石その他の技術材料、ホログラム等の特殊技術製品、教育や研究、試験に係る資料・機械類・試作品、県内産業の技術部品や製品、県にゆかりのある科学者・技術者の関連資料、などを工学・科学・物理・数理・生物・医学の５分野に分けて整理し、保存・管理していています。令和6年3月31日現在で5485点の資料を登録しています。

国産白黒真空管テレビ（1959年製）

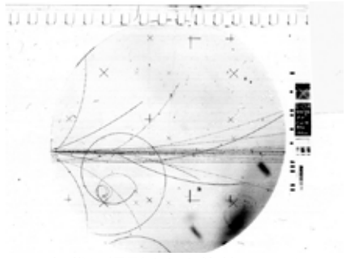
8mmフィルム撮影機とフィルムカセット

多様な真空管

初期の国産テレビゲーム機

国産PCのパッケージ

シリコンのインゴット

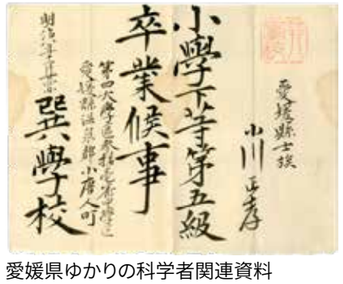

1970年代に撮影された泡箱フィルム

国産ロケットM-V試験機のフェアリングカットサンプル

ホログラム資料

愛媛の工場でのみ製造されていたビデオデッキと専用カセットテープ

世界初の自動式炊飯が実現した炊飯器



愛媛県ゆかりの科学者関連資料

産業部門

愛媛県の基幹産業の変遷、産業構造の変容を把握し、過去の貴重な産業資料の散逸を防ぐため、資料を収集しています。主に愛媛県内で実際に使用されていた産業機械や道具・製品等の実物資料、またそれに付随する当時の記録資料や写真等を収集してきました。資料は収集して終わりではなく、それを基に産業史研究を進め、研究報告書で公開し、展示事業・教育普及事業へと繋げています。資料収集の方法は、主に寄贈です。地域の方々のご厚意により、博物館に多くの資料が集まりました。貴重なこれらの資料を、しっかりと後世に引き継いでいきたいと思います。

通票閉そく機：企画展「愛媛の鉄道」での展示後、産業館に展示

タービンロータ：特別展「わくわくエネルギー体験館」での展示後、屋外展示場に展示

型銀秤量器：実際に当時秤量器を扱っていた方の解説映像とともに、産業館に展示

セルロースナノファイバー関連資料：産業館に展示

曽我部右吉四阪島煙害関連資料：この資料により明治期の煙害に係る動向が明らかに

鉱山絵葉書：企画展「鉱山絵葉書写真展」での展示後、産業館に展示

木村日出雄コレクション（航空関連資料）：昭和38年以降の新聞記事スクラップブック等

海上交通関連資料：大下島アゴノ鼻灯台で平成26年7月にLED灯に更新されるまで使用された灯器

農林水産（柑橘）関連資料：仙波寅蔵（松山）によって開発されたみかん選果機

農林水産（漁業）関連資料：すくいちりめん漁に使用する集魚灯（水中用、海上用）

岩田コレクション（交通運輸関連写真）：伊予鉄道森松線を走行する列車(1965年)

高強力アラミド繊維及び構造発色繊維：産業館に展示

愛媛県立博物館

　愛媛県立博物館は、郷土の自然を深く理解するための学習の場として昭和34(1959)年に発足（当初は愛媛県立図書館附属博物館）しました。同館は、第二次大戦後に日本各地で整備が進んだ地方自然史博物館の先駆的な存在として愛媛県内の資料を収集・研究、企画展を催したほか、自然科学の普及啓発を行う愛媛自然科学教室を運営するなど活発な活動を続けてきましたが、平成20(2008)年12月に休館、翌21(2009)年３月に閉館しました。

　同館が50年間に渡って収集してきた自然史資料は20万点を超え、愛媛の博物学史を振り返る上で、重要な役割を果たしてきた先人のコレクションが多く含まれています。動物分野では昭和20年代後半から40年代にかけて愛媛県によって収集されたニホンカワウソ関連資料、県立博物館の各種コレクションの基礎を築いた楠博幸氏による昆虫を中心とした標本群のほか、昭和25年の昭和天皇四国巡幸の折に新田高校でご進講に当たった在野の研究者・村上次郎氏の貝類コレクションなどがあります。植物分野では愛媛県立博物館の設置に尽力した八木繁一氏、周桑博物同好会を主宰した余吾一角氏、愛媛植物研究会を主宰した山本四郎氏とその父・山本一氏によるコレクションがあります。またこれらのほかに、余吾一角氏が各地の研究者と交流する中で交換したと見られる膨大な標本があります。地学分野では愛媛大学で鉱床学・鉱物学の研究をしていた宮久三千年氏の鉱物コレクション、松山中学（現・愛媛県立松山東高等学校）で博物学の教師をしていた奥平幹一氏の鉱物コレクションなどがあります。

　各分野の内訳は動物分野が約128,600点、植物が65,100点、地学分野が約6,600点で、休館から閉館までの３ヶ月の間に当館に移管、現在も整理を行いながら研究を進めています。

カワウソの剥製

輝安鉱

作業の様子

第５章

学芸員の調査研究

学芸員の調査研究

調査研究

自然分野での調査研究は、学芸員による野外調査・観測による研究、収集された資料に関する研究、生物の飼育栽培、観察・観測に係る技術的研究のほか、県内の動物の記録に関する文献研究、展示手法や博物館学的研究など、多岐にわたる領域で進められ発表されてきました。

動物分野

動物分野では加茂川など河口域での総合調査のほか、県内の鳥類相・昆虫相の基礎的な調査、絶滅危惧種・稀産種に関する記録、県内の学校に収蔵されている動物標本に関する研究などが行われ、博物館の研究報告や学芸員が加入している各種学会において発表されています。

県内の生物に関する調査研究の成果やデータの蓄積は、論文としての発表以外にもさまざまな場面で活用されており、絶滅危惧種に関しては愛媛県や松山市のレッドデータブックへの協力という形で活用されました。レッドデータブックでは調査自体にも分科会員あるいは協力者として関わり、環境省自然共生サイト登録に関する伴走支援などでも調査の協力を行ないました。そのほかにも、自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC）や高緯度サンゴ群集域気候変動適応ネットワークなどに博物館として参加し、他の研究機関と情報交換を行なっています。

植物分野

植物分野では県内の植物・藻類・菌類・地衣類相を明らかにするための調査活動を行っています。その中で発見された愛媛県新産種や絶滅危惧種等の記録について博物館の研究報告や学芸員が加入している各種学会において発表されています。

これまでの調査研究の成果やデータは動物分野と同様にさまざまな場面で活用されており、絶滅危惧種の記録に関しては愛媛県レッドデータブックへ反映されると共に分科会員として関わりました。

一般に「緑の国勢調査」と呼ばれる環境省の自然環境保全基礎調査では御荘湾総合生物調査を行いました。その他、愛媛県や市町村と積極的に連携し、愛媛県石鎚山系生物多様性保全推進協議会の植生調査、愛媛県希少野生動植物トキワバイカツツジ保全管理事業、新居浜市銅山峰のツガザクラ群落調査委員会等へも協力しています。

地学分野

愛媛県の地質的な特性を理解するために、県内の岩石、鉱物、化石、地質、地形に関する調査を行なっています。岩石、鉱物、化石については、野外調査で採集されたものや寄贈された標本、愛媛県立博物館からの移管された標本を対象とし、それぞれの標本の価値を見い出すために、各専門分野の研究者の協力を得ながら調査を進めています。地質及び地形については、新たに露出した中央構造線の露頭の記録のほか、断層地形や地層などに関して記録のための撮影を行なっています。

また、学芸員の専門分野における研究として、愛媛県沿岸海域において、現生海棲微小甲殻類の分布調査を実施し、地質時代の古環境推定に必要な基礎データを収集しています。

これらの調査研究の成果は、学会や博物館の研究報告において発表されています。

豪雨により新たに露出した中央構造線露頭の調査

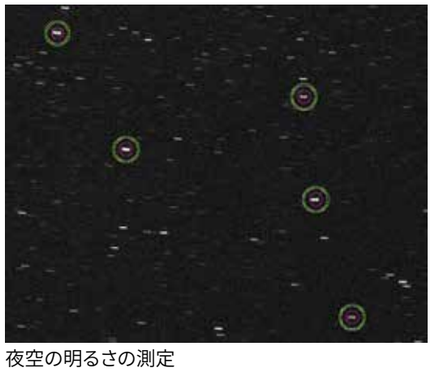
愛媛県沖の海底から見つかった哺乳類頭骨化石の調査

天文分野

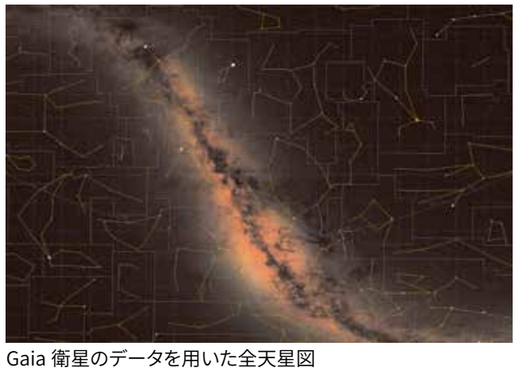
天文分野では、地域に関する調査として「夜空の明るさ調査」を行っています。博物館周辺での定点観測および県内各地での分布調査のほかに、時間による変化や街明かりとの直接比較などを行い、地域の資源としての星空の可能性を調べています。それ以外には、県内のプラネタリウム投影機の調査など、天文資料に関する調査を行っています。

また、天体は暗くて見えづらいというのが、天文に興味をもつ点において障害となっています。そこで、タイムラプス撮影で天文現象を疑似体験できるようにしたり、観測データを可視化して展示物を製作したり、さらにはそれらをプラネタリウムで体験できるようにするなど、天文を直感的に理解できる方法を探っています。

観測機材の制約により機会は限られますが、掩蔽観測などの科学観測にも協力しています。



夜空の明るさの測定



Gaia 衛星のデータを用いた全天星図

愛媛県ゆかりの科学者・技術者の顕彰

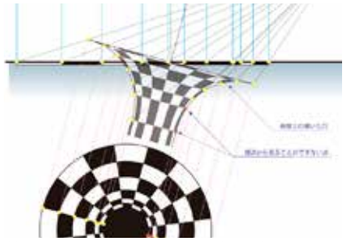
　愛媛県出身で科学の発見や技術の発明に顕著な業績を残した科学者・技術者について、実物資料を基にその業績をまとめています。アジア人初の新元素発見者である小川正孝について、国内外の科学史研究雑誌に論文の発表や企画展・巡回展の開催、展示図録発行でその業績の再評価を広く伝えました。世界初自動炊飯技術を完成させた三並義忠について、業績に加えて初めてその生涯を明らかにしました。小川と三並の業績は常設展示でも公開しています。

　また、愛媛県出身でノーベル物理学賞を受賞した中村修二、真鍋淑郎の業績は、貴重な実物による期間展示で評価するとともに、受賞者本人による講演会も開催しました。

御遺族の協力により研究に関連する実物資料を分析して、科学や技術の業績を顕彰

体験装置の企画と技術開発

　科学法則や現象を楽しむ体験装置のための、新しい演出とそれに伴う技術・構造を企画・開発して、その技術情報を論文等で発行しています。開発したほとんどの装置は当館で内製しています。企画展で公開することが多く、その後、オリジナリティあふれる当館の常設展示の一つとして移設し、来館者に長く親しんでいただいています。全国の科学館等施設に巡回した装置や、いろいろな科学館で常設展示として複製された装置もあります。

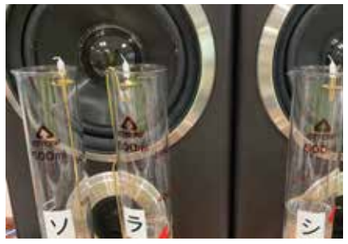


装置は開発だけでなく、来場者の体験により修正・改良した実践的な技術情報を公開

科学教材とサイエンスショー製作

　科学工作教室や実験教室、サイエンスショーなどにおいて、楽しく科学の現象を観察し、分かりやすく原理を説明するための実験装置や科学展示物を製作しています。工作や実験教室などで使用するモノづくり教材では、子どもたちが自分の手で製作できるように材料や作り方の工夫をしています。その内容は研究報告書で発表し、誰でも作ることができるように情報を提供しています。

科学工作教室「水上を進むホバークラフト工作」



気柱の共鳴を利用して音で火を消す予備実験中

学芸員が試行錯誤しながら工作の試作をしています

パラボラで集光した熱でフラッシュペーパーに引火させるテスト実験

撥水素材を雨どいに貼って水滴を転がして水と素材の特性を紹介するサイエンスショーを実施

愛媛の産業史

　愛媛の産業について、現状のみならずどのように発展してきたのか、その地域社会の変容をも含め調査を行い、記録に残しています。製紙業については、製紙工場のほか伝統産業である手すき和紙や水引の現場も訪ね、古写真を収集し聞き取り調査を行っています。養殖業については、西条ののり養殖や宇和島の真珠養殖・魚類養殖の現場を調査し、記録に残すとともに展示で紹介しました。鉱業では、別子銅山を中心に調査を行っています。特に研究報告「別子銅山産業遺産の残存状況～四阪島～」は大きな反響があり、国内複数の大学からの問合せや新聞社の取材がありました。また「曽我部右吉四阪島煙害関連資料」の研究では、明治期の煙害に係る東予地域の動向が明らかになりつつあります。この資料は、当館の産業資料の中で外部からの閲覧・研究利用申請が最も多い資料となっています。電力業については、県内各地の発電所を巡り、古い文献を含め貴重な資料を集めて調査を行いました。あまり知られていない造船業やタオル産業に係る産業遺産については、現地調査後に見学できる講座を企画して好評を得ています。

　これら愛媛の産業史に係る調査研究をもとに、「愛媛温故紀行～明治・大正・昭和の建造物～」や「近代化えひめ歴史遺産総合調査報告書」等、外部からの原稿執筆依頼にも数多く応えてきました。今後も、愛媛の産業とその変遷について多くの方に知っていただけるよう、教育普及・展示事業の充実を目指し、その根幹となる調査研究に注力していきます。

水産業の調査について

　愛媛県の海岸線の長さは全国でも5位で約1,700kmもの長さがあります。大小様々な島や狭い海峡などがある瀬戸内海と、リアス式海岸と呼ばれる複雑な海岸線を持つ宇和海の2つの海域に接しており、漁業をはじめとする水産業が盛んです。

　漁業の調査では、漁具を集めるだけでなく、どのように魚をとっているか、つまり漁法についても調べています。文献を調べたり、漁業者から聞き取りをしたりしますが、実際に漁をする場所に出向いて調査も行います。漁船に同乗させていただき、漁の様子をビデオカメラや写真に収め、記録とします。特にビデオ映像は、漁業者の動きや漁具の使い方など、漁の様子が詳細に記録できるため調査には欠かせないものです。夜通しで漁の調査をしたり、波が高くて船酔いしたりなど苦労がつきものですが、こうして集められた資料は、漁業に関する展示に使用される他に、現在の漁業の貴重な記録として残していきます。

巻き網漁業調査（写真右側でカメラを持っているのが筆者）

すくいちりめん漁（集魚灯で集魚中）

集魚灯の下に集まったちりめん

第６章

教育普及活動

博物館講座

青少年及び一般成人の科学に関する知識の普及啓発を図ることを目的とする愛媛県総合科学博物館教育普及事業の一環として自然、科学技術、愛媛県の産業について理解を深める場として博物館講座を開催しています。実施にあたっては、最新の学術情報や成果を盛り込むなど参加者の興味を引くような工夫を図り、効果を高める内容となっています。講座の内容も自然観察会（10講座）、親子自然教室（４講座）、天体観望会（6講座）、科学実験教室（約6講座）、科学工作教室（約6講座）、大人のための科学講座（4講座）、産業講座（約6講座）を実施し、多くの県民の皆様に参加いただきました。

自然観察会
きのこの観察

自然観察会
関川の岩石・鉱物

自然観察会
夜の虫ウォッチング

親子自然教室
葉っぱ図鑑をつくろう

親子自然教室
アロサウルスの復元模型に挑戦!

天体観望会
太陽と金星

科学実験教室
野菜やくだものからDNAを取り出そう

科学実験教室
ぽかぽか!あったか!発泡入浴剤の科学

科学工作教室
ペットボトルロケットを作って飛ばそう

大人のための科学講座
植物の見分け方ポイント!秋

産業講座
海の学び講座

産業講座
鋳物工場見学会

各種イベント

ゴールデンウイークや夏休みのお盆時期、クリスマス、新春など来館者が多い時期に、博物館主催又は友の会、関係団体等との共催による実験教室や工作教室、指定管理者による自主事業等、博物館の設置目的を達成するための県民に親しまれるイベントを多数開催しました。

GWイベント
わくわく!ミュージアム

GWイベント
わくわく!ミュージアム

プラネ池イベント
CO_2実験ショー

夏休みイベント
夏だ !! おもしろ実験祭り

夏休みイベント
スリラー博士の恐怖の実験ショー

開館記念イベント
種で遊ぼう

プラネタリウムイベント

クリスマスイベント
ナイトミュージアム

クリスマスイベント
博物館イルミネーション

新春イベント
化石を発掘しよう!

新春イベント
イノシシのDeepな世界

みんな集まれ!!
わくわくサイエンス広場

第７章

アウトリーチ活動

アウトリーチ活動

学習支援の一環として「講師派遣」「貸出セット」「来館困難な方のための講師派遣」の取り組みを行っています。より多くの方々に自然科学の体験してもらう機会を提供できる重要な活動です。

講師派遣

県内の小・中・高等学校、公民館や図書館、児童館などの社会教育施設から依頼を受け、学芸員を派遣し科学講座を行っています。自然分野や科学、産業分野までさまざまな分野の専門の学芸員が対応しています。

実験器具と標本セット貸出

学校・子供団体等に実験器具や実物標本を貸し出しを行っています。空気砲実験セット、静電気実験セット、シャボン玉実験セット、化石標本、化石レプリカ製作セット、昆虫標本セット、ダジックアースの計７種類があります。

来館困難者のための講師派遣

日頃博物館に来館することが困難な障がいや疾病を有する児童生徒の為に、当該施設や病院、学校に対して学芸員を派遣し科学講座を実施しております。これまでに特別支援学校や盲学校、放課後等デイサービスなどに出向し楽しい講座を実施しています。

第８章

学校との連携・博物館実習

学校との連携

教員のための博物館の日

　学習指導要領に沿った展示室の利用方法や学習用プラネタリウム、授業に役立つ科学講座、学習用貸出キット紹介など、小学校・中学校・高等学校教員から社会教育施設職員の皆様を対象とした１日限定の体験講座を実施しています。科博ならではの実験道具や実物資料を使い、さまざまなプログラムを体験できます。

中高生のためのかはく科学研究プレゼンテーション大会

　科学研究において、プレゼンテーション能力が重視されるようになっている昨今、学生が学校の外での発表の経験をし、科学コミュニケーション能力を向上できるよう、当館にてプレゼンテーション大会を夏休みの期間に開催しています。

　平成27年度の第１回大会では愛媛県内からの参加のみでしたが、第３回以降は中四国から広く中高生が参加しています。令和３年度の第７回大会では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でオンラインでの開催となりましたが、現在も継続して中高生に発表の機会を提供しています。

博物館実習

　博物館法に定められた学芸員資格取得に必要な実習を毎年開催しています。博物館の根幹をなす調査研究・資料収集整理保存・教育普及・展示に関する実務を中心に、10 日間のカリキュラムを組んでいます。

第９章

友の会・ボランティア活動

友の会・ボランティア活動

友の会活動

　青少年及び一般成人の科学に関する知識の普及啓発を図ることを目的とする愛媛県総合科学博物館友の会が平成７年10月１日に設置され、さまざまな活動を行っています。現在、天文クラブ、科学クラブ、自然クラブの３つのクラブが活動しています。

新しい発想で運営できる指導者を求めて　　友の会会長　立石 康

　開館３０周年　おめでとうございます。

　理科工作と聞いただけで何を、どんなやり方でするのか千差万別です。よく続いたものだと思います。計画を完全に履行するためには、指導者と事務局が両輪となり運営したことが成功のカギだと思いました。

　こどもの自主性をはぐくむ理科や実験とは、すぐに展開出来るものでは有りません。当日の児童の実態と工作技術、どこまで指導者が手を入れておけば時間内に完成するのかなど綿密さが要求されます。日本全国これは共通の課題でしょうが、新しい発想で取り組んでいく人材の発掘が急務です。

天文クラブの思い出　　天文クラブ部長　伊藤 文雄

　開館当初から「天体観望会」の講師を務めさせていただいた関係で、今からおよそ28年前の「天文クラブ設立総会」(平成９年２月８日)に立ち会うことができました。

　それまでも「天体観望会」に参加して天文に興味や関心を持った方々はいらっしゃいましたが、お互いに交流する時間や場所がありませんでした。そこで初心者でも安心して天文について学ぶことができ、また経験者はより深い知識や技術を身に付けることができる集まりとして「天文クラブ」が誕生しました。

　これまで「天文クラブ」ではいろいろな天文教室や出張講座を開催してきましたが、一番の思い出は夏と冬のキャンプです。子どもたちが初めて望遠鏡で土星や木星、月などを見たときの「やばい!」「きれい!」という歓声が今でも印象に残っています。これからもみなさんに天体観望の魅力や感動を伝えていきたいと思います。

科学クラブとの出会い　　科学クラブ部長　坂井 喜代己

　私が以前住んでいた青森では、息子に科学に興味を持ってもらいたいと、八戸市児童科学館や六ヶ所PRセンターに連れて行っていました。その時は遠方であったため、客の立場でした。新居浜に戻り、近くに愛媛県総合科学博物館があると聞いていましたので、さっそく博物館を訪れたところ、科学クラブの皆様がお客様向けにイベントを開催されていました。その時は見学しただけでしたが、息子には、積極的に人との関わりを体験させたいと、さっそく、科学クラブに入会させていただきました。科学工作、科学実験を体験するだけでなく、イベントで、お客様相手に、説明したり、工作を手伝ったりと、非常に良い経験ができたと思います。

　そんな息子も、今や社会人になって、新居浜を離れていますが、残った私は、引き続き、科学クラブで工作や実験を通じてお客様との出会いを楽しませていただいています。

自然クラブ　　友の会自然クラブ　世話人　川又 明徳

　友の会には、まず天文クラブが誕生し、続いて科学クラブが誕生しました。そして、第３のクラブとして自然クラブが誕生しました。平成11年だったと記憶しています。

　自然分野は、動物、鳥、昆虫、植物、菌類、 etc…、と観察対象の大変多く、当時の学芸課自然研究科のメンバーで手分けして、クラブのみな様の要望を聞きながら自然観察をやってきました。また、自然観察以外には博物館うら山に遊歩道を拓いて雑木の枝打ちをしたり、樹木に名札を掛けたりもしました。

　設立当初の恒例行事として、春にうら山から食べることのできる野草や木の芽を採集して、それを天ぷらにしていました。途中からは、ドラム缶で炭焼き作りをしたことをきっかけに始まった焚き火が恒例行事となっています。

　これからも引き続き、クラブのお世話をしていきたいと考えております。

ボランティア活動

　地域住民の博物館活動への参画と来館者サービスの向上を目的に、展示解説ボランティアや資料整理ボランティア、普及啓発事業ボランティアを受け入れ、博物館イベント等に積極的に活動していただきました。

30年を振り返って　　博物館ボランティア　弓山 利美

　開館30周年おめでとうございます。

　科学博物館には開館当初から親子で一緒に通い、工作や実験を楽しく面白く過ごさせていただいてきました。その内に友の会科学クラブがイベントをする時にはお手伝いするようになり、それが楽しみになってきました。工作の作り方の助言をしても上手く伝わらなくて反省した事もありますが、思いもよらない作り方をされて驚いて感心したこともあります。来館者の皆様が喜んでくれるととてもうれしくなります。今は子どもたちも巣立って私一人が博物館に出入りしてますが、学芸員や職員の人たちに色々教えてもらいながら、ボランティアをすることはとても楽しく、いろいろな体験をさせていただいてありがたいと思っています。

第9章

編集後記

愛媛県総合科学博物館が開館して30年が経ちました。その間に、施設は数々の大きな出来事を経験しています。愛媛県立博物館の閉館に伴い、ニホンカワウソのはく製などの貴重な資料が当館に移管されました。指定管理者制度が導入され、県と民間二人三脚での運営に変わりました。プラネタリウムをデジタル映像と併せて投影できるよう更新し、自然館の目玉展示だった恐竜ロボットを子どもたちと一緒に体操するようモデルチェンジし、さらに人気を集めています。コロナウイルス感染症拡大防止で長期間の休館なども体験しました。

学芸員の多くは開館当初からのスタッフで、この博物館と一緒に成長してきました。記念誌編集は、30年の懐かしい思い出に浸りながらの作業となりました。開館当初私たちは経験も浅く、他館から展示や資料の扱いなど、貴重なノウハウを教えてもらいつつ業務に励みました。事業に参加された皆様からの御意見は懸命にフィードバックし、寄贈や調査、教育活動などで多くの方にお世話になり、少しずつ経験を重ね、成長できた幸多き30年だったと実感しています。皆様のおかげで資料や展示は充実し、魅力的な事業をより多く実現できるようになりました。私たち博物館の職員にとって、幾多の活動を通じて皆様と触れ合えたことが一番の宝であったと思います。

令和５年４月に改正博物館法が施行され、博物館には新しい機能が求められています。様々な主体と相互に連携・協力しながら、地域の教育、学術、文化の振興、文化観光、その他の活動を推進し、地域の活力向上に寄与するよう努めます。VR、AIなどのデジタル技術の発達と、DXの推進で、博物館に行かなくても高品質な情報が得られるなど、30年前には思いもよらない新しいスタイルが訪れます。それも取り入れつつ、私たちは皆様との触れ合いを大切にし、「博物館に実際に行く」選択を受け続け、博物館資料を未来に継承するよう、今後とも活動していきたいと考えています。

最後に、30年にわたりお世話になりました多くの皆様へ職員・学芸員一同御礼を申し上げますとともに、これからも新しい博物館の魅力を発信し、愛される博物館を目指し、精進していきますので、一層の応援をよろしくお願い申し上げます。

令和７年３月
博物館職員・学芸員一同

愛媛県総合科学博物館開館30周年記念誌

発行日　令和7年3月31日

編集・発行　愛媛県総合科学博物館
〒792-0060
愛媛県新居浜市大生院2133-2
TEL　0897-40-4100
FAX　0897-40-4101

印刷所　株式会社ハラプレックス
愛媛県今治市喜田村 1-2-1

愛媛県総合科学博物館
Ehime Prefectural Science Museum